資料１

海陽町　学校のあり方に関する
アンケート調査

－　報　告　書　－

令和４年１０月

海陽町　教育委員会

目　　次

Ⅰ　調査の概要 ---------- 1
　1　調査内容 ---------- 1
　2　調査結果の概要 ---------- 2

Ⅱ　回答者の属性 ---------- 10
　回答者区分---------- 10
　問1　年齢 ---------- 10
　問2　居住地区 ---------- 10

Ⅲ　集計結果 ---------- 11
小・中学校との関わりについて ---------- 11
　問3　コロナ禍以前の小・中学校との関わり ---------- 11
　問4　現在の小・中学校との関わり ---------- 12
　問5　今後の小・中学校との関わり ---------- 13
学校と地域のあり方について ---------- 14
　問6　小学校に求めること ---------- 14
　問7　中学校に求めること ---------- 15
　問8　町内の小・中学校の再編・統合について ---------- 16
　問9　「海陽町の小・中学校統合計画」について ---------- 17
　問10　小・中学校が再編・統合される場合、心配なこと---- 19
　問11　町営バスのあり方について ---------- 20
　問11－1　バスの統合を検討する場合、配慮すべきこと---- 21
　問12　小・中学校のあり方を審議するにあたり
　　配慮してほしいこと---- 22
　問13　町の小・中学校のあり方や
　　再編・統合に関するご意見
　　---------- 23

Ⅰ　調査の概要

1　調査内容

□調査実施内容

区　　分	保護者	町民
調査対象	就学前児童や小・中学生の保護者	１６歳以上
抽出方法	全員	住民基本台帳より無作為抽出 （左記の保護者を除く）
調査期間	令和４年６月２３日～７月１１日	令和４年６月２３日～７月１１日
配布数	５５７	５００
調査方法	学校配布、学校回収	郵送配布、郵送回収
有効回収数	３０７	２１３
有効回収率	５５.１％	４２.６％

□報告書の見方

・回答結果の割合「％」は、回答者数（ｎ）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が１００％にならない場合があります。
・複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（ｎ）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「％」合計が１００％を超える場合があります。
・グラフ及び表中のｎ（number of case）は、集計対象者総数です。

２　調査結果の概要

小学校の再編・統合について

小学校の再編・統合については、海南地区と海部地区の意向は、「やむを得ない」となっています。宍喰地区では、保護者が「避けるべき」の意向が強くなっています。

中学校の再編・統合について

中学校の再編・統合については、すべての地区の意向は「やむを得ない」が多くなっていますが、宍喰地区の保護者は「やむを得ない」と「避けるべき」に意向が分かれています。

学校の適正規模・適正配置について

『小・中学校のすべての学級でクラス替えができる規模にする』という考えについては、海南地区では「そう思う」、海部地区では「そう思う」と「そう思わない」が同じ割合となっています。宍喰地区では「そう思わない」が多くなっています。

町内の学校体制について（小学校１校・中学校１校体制）

「小学校１校・中学校１校体制」については、海南地区の保護者の意向「そう思う」となっていますが、地域住民は、「そう思う」と「そう思わない」に意向が分かれています。

海部地区の保護者の意向「そう思わない」となっていますが、地域住民は、「そう思う」と「そう思わない」に意向が分かれています。

宍喰地区の意向は、「そう思わない」となっています。

町内の学校体制について（小学校２校・中学校２校体制）

「小学校２校・中学校２校体制」については、すべての地区で「そう思う」となっています。

（１）小学校の再編・統合について

各地区で「再編・統合はやむを得ない（すべきを含む）（以下、「やむを得ない」という）」と「できるだけ再編・統合は避けるべき（以下、「避けるべき」という）」をみると、

海南地区では、「やむを得ない」63.0%、「避けるべき」26.2%で、差は 36.8 ポイントとなっています。

海部地区では、「やむを得ない」53.5%、「避けるべき」31.4%で、差は 22.1 ポイントとなっています。

宍喰地区では、「避けるべき」56.1%、「やむを得ない」34.2%で、差は 21.9 ポイントとなっています。

各地区を 40 代以下（保護者）と 50 代以上（地域住民）の年代でみると、

海南地区では、「やむを得ない」をみると、40 代以下（保護者）６割を超え、50 代以上（地域住民）は５割を超えている。

海部地区では、「やむを得ない」をみると、40 代以下（保護者）と 50 代以上（地域住民）はともに５割を超えている。

宍喰地区では、「避けるべき」をみると、40 代以下（保護者）は５割を超えている。しかし、50 代以上（地域住民）は「やむを得ない」と「避けるべき」がともに４割を超えている。

	海南			海部			宍喰		
	全体	*40代以下*	*50代以上*	全体	*40代以下*	*50代以上*	全体	*40代以下*	*50代以上*
再編・統合はやむを得ない（すべきを含む）	63.0	*65.9*	*56.0*	53.5	*52.4*	*56.5*	34.2	*31.2*	*43.3*
できるだけ再編・統合は避けるべき	26.2	*23.2*	*34.1*	31.4	*33.3*	*26.1*	56.1	*59.1*	*46.7*
わからない	10.5	*10.4*	*9.9*	15.1	*14.3*	*17.4*	8.9	*9.7*	*6.7*

（２）中学校の再編・統合について

すべての地区で「再編・統合はやむを得ない（すべきを含む）」が最も多くなっています。

各地区を 40 代以下（保護者）と 50 代以上（地域住民）の年代でみると、

海南地区で、「やむを得ない」をみると、40 代以下（保護者）６割を超え、50 代以上（地域住民）は５割を超えている。

海部地区で、「やむを得ない」をみると、40 代以下（保護者）５割を超え、50 代以上（地域住民）は６割を超えている。

宍喰地区の 40 代以下（保護者）は、「やむを得ない」と「避けるべき」がともに４割を超えている。

	海南			海部			宍喰		
	全体	*40代以下*	*50代以上*	全体	*40代以下*	*50代以上*	全体	*40代以下*	*50代以上*
再編・統合はやむを得ない（すべきを含む）	63.9	*68.2*	*55.0*	57.0	*55.6*	*60.9*	49.6	*47.3*	*56.7*
できるだけ再編・統合は避けるべき	25.3	*22.3*	*33.0*	27.9	*28.6*	*26.1*	39.8	*40.9*	*36.7*
わからない	10.2	*9.5*	*11.0*	15.1	*15.9*	*13.0*	10.6	*11.8*	*6.7*

（３）『海陽町の小・中学校統合計画』について

①『「集団による教育の充実」と「指導体制の充実」のために、小・中学校のすべての学級でクラス替えができる規模にする。（１学年２学級以上）』という考え方について

海南地区では「そう思う・ややそう思う」が最も多く、内訳を年代でみた場合、50 代以上の方が多くなっています。

一方、宍喰地区では「ややそう思わない・そう思わない」が最も多く、内訳を年代でみた場合、40 代以下の方が多くなっています。50 代以上では「そう思う・ややそう思う」と「ややそう思わない・そう思わない」の割合が同じとなっています。

海部地区では「そう思う・ややそう思う」と「ややそう思わない・そう思わない」の割合が同じで、年代でみた場合、「ややそう思わない・そう思わない」は 50 代以上の方が多く、「ややそう思わない・そう思わない」は 40 代以下の方が多くなっています。

	海南			海部			宍喰		
	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上
そう思う･ややそう思う	44.6	42.7	49.5	40.7	36.5	52.2	29.3	26.9	36.7
どちらでもない	27.9	31.3	20.9	17.4	20.6	8.7	23.6	23.7	23.3
ややそう思わない･そう思わない	26.9	26.1	28.6	40.7	41.3	39.1	46.3	49.5	36.7

②『小・中学校のすべての学級でクラス替えができるようにするためには、町全体で「小学校１校・中学校１校」とせざるを得ない』という考え方について

海南地区では「そう思う・ややそう思う」が最も多く、内訳を年代でみた場合、40 代以下の方が多くなっています。50 代以上では「ややそう思わない・そう思わない」の方が多くなっています。

一方、海部地区と宍喰地区では「ややそう思わない・そう思わない」が最も多く、内訳を年代でみた場合、両地区で 40 代以下の方が多くなっています。海部地区の 50 代以上は、「そう思う・ややそう思う」と「ややそう思わない・そう思わない」の割合が同じとなっています。

	海南			海部			宍喰		
	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上
そう思う･ややそう思う	42.6	45.5	37.4	26.8	20.6	43.5	26.8	23.7	36.7
どちらでもない	22.6	22.3	23.1	19.8	22.2	13.0	15.5	18.3	6.7
ややそう思わない･そう思わない	33.8	31.8	38.5	52.3	55.6	43.5	57.7	58.1	56.7

③『町の地理的条件を考えると「小学校１校・中学校１校」は厳しいため、町全体で「小学校２校・中学校２校体制」をめざすことが妥当といえる。』という考え方について

すべての地区で「そう思う・ややそう思う」が最も多く、内訳を年代でみた場合、すべての地区で50代以上の方が多くなっています。

	海南			海部			宍喰		
	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上	全体	40代以下	50代以上
そう思う･ややそう思う	51.5	47.4	61.5	59.3	58.7	60.9	55.3	53.8	60.0
どちらでもない	22.0	24.2	17.6	12.8	15.9	4.4	20.3	24.7	6.7
ややそう思わない･そう思わない	24.9	27.0	19.8	27.9	25.4	34.8	23.6	21.5	30.0

（４）小・中学校との関わりについて（コロナ禍以前、現在、今後）

①海南地区

海南地区では、コロナ以前・現在・今後に関係なく、「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること」が最も多くなっています（「特にない」を除く）。

現在から今後にかけて「関わりをもちたい」という考えが最も増加しているのは「学校行事を通して地域のまちづくりに関わること」で14.8ポイント増となっています。

	海南地区				
	コロナ禍以前していた (A)	現在している (B)	今後したい (C)	変化 (B-A)	変化 (C-B)
役職をもって学校と関わること	18.0	22.6	9.8	4.6	▲ 12.8
ボランティアで児童生徒を見守り育てること	3.6	2.3	11.8	▲ 1.3	9.5
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること	35.7	28.9	31.5	▲ 6.9	2.6
学校行事を通して地域のまちづくりに関わること	9.8	3.6	18.4	▲ 6.2	14.8
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用すること	5.9	2.0	11.5	▲ 3.9	9.5
自主的に学校施設を利用すること	8.9	6.2	11.8	▲ 2.6	5.6
その他	3.9	3.3	1.6	▲ 0.7	▲ 1.6
特にない	49.2	53.8	43.6	4.6	▲ 10.2

②海部地区

海部地区では、コロナ以前と今後は「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること」が最も多く、現在は「役職をもって学校と関わること」が最も多くなっています（「特にない」を除く）。

現在から今後にかけて「関わりをもちたい」という考えが最も増加しているのは「ボランティアで児童生徒を見守り育てること」で 12.8 ポイント増となっています。

	海部地区				
	コロナ禍以前していた（A）	現在している（B）	今後したい（C）	変化（B-A）	変化（C-B）
役職をもって学校と関わること	24.4	30.2	15.1	5.8	▲ 15.1
ボランティアで児童生徒を見守り育てること	5.8	3.5	16.3	▲ 2.3	12.8
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること	33.7	29.1	33.7	▲ 4.7	4.7
学校行事を通して地域のまちづくりに関わること	12.8	11.6	20.9	▲ 1.2	9.3
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用すること	5.8	2.3	11.6	▲ 3.5	9.3
自主的に学校施設を利用すること	12.8	11.6	14.0	▲ 1.2	2.3
その他	3.5	1.2	3.5	▲ 2.3	2.3
特にない	48.8	40.7	37.2	▲ 8.1	▲ 3.5

③宍喰地区

宍喰地区では、コロナ以前・現在・今後に関係なく、「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること」が最も多くなっています（「特にない」を除く）。

現在から今後にかけて「関わりをもちたい」という考えが最も増加しているのは「ボランティアで児童生徒を見守り育てること」で 13.0 ポイント増となっています。また、コロナ禍以前から現在にかけても 2.4 ポイント増となっています。

	宍喰地区				
	コロナ禍以前していた（A）	現在している（B）	今後したい（C）	変化（B-A）	変化（C-B）
役職をもって学校と関わること	18.7	23.6	8.1	4.9	▲ 15.5
ボランティアで児童生徒を見守り育てること	2.4	4.9	17.9	2.4	13.0
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること	43.9	42.3	39.0	▲ 1.6	▲ 3.3
学校行事を通して地域のまちづくりに関わること	22.8	22.8	26.0	0.0	3.3
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用すること	2.4	3.3	8.1	0.8	4.9
自主的に学校施設を利用すること	7.3	6.5	12.2	▲ 0.8	5.7
その他	5.7	3.3	4.1	▲ 2.4	0.8
特にない	39.8	40.7	35.8	0.8	▲ 4.9

④４０代以下

40 代以下では、コロナ以前・現在・今後に関係なく、「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること」が最も多くなっています（「特にない」を除く）。

現在から今後にかけて「関わりをもちたい」という考えが最も増加しているのは「学校行事を通して地域のまちづくりに関わること」で 11.9 ポイント増となっています。

	40代以下				
	コロナ禍以前していた（A）	現在している（B）	今後したい（C）	変化（B-A）	変化（C-B）
役職をもって学校と関わること	20.8	29.7	12.1	8.9	▲ 17.5
ボランティアで児童生徒を見守り育てること	3.2	2.2	13.8	▲ 1.1	11.6
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること	39.6	39.1	39.4	▲ 0.5	0.3
学校行事を通して地域のまちづくりに関わること	13.5	10.0	21.8	▲ 3.5	11.9
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用すること	4.9	3.0	11.6	▲ 1.9	8.6
自主的に学校施設を利用すること	9.4	7.8	12.1	▲ 1.6	4.3
その他	3.5	2.4	1.9	▲ 1.1	▲ 0.5
特にない	44.7	41.2	38.3	▲ 3.5	▲ 3.0

⑤５０代以上

50 代以上でも、コロナ以前・現在・今後に関係なく、「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること」が最も多くなっています（「特にない」を除く）。

現在から今後にかけて「関わりをもちたい」という考えが最も増加しているのは「ボランティアで児童生徒を見守り育てること」で 9.0 ポイント増となっています。また、「特にない」は、現在から今後にかけて 18.8 ポイント減少しています。

	50代以上				
	コロナ禍以前していた（A）	現在している（B）	今後したい（C）	変化（B-A）	変化（C-B）
役職をもって学校と関わること	15.3	11.1	6.3	▲ 4.2	▲ 4.9
ボランティアで児童生徒を見守り育てること	4.9	5.6	14.6	0.7	9.0
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めること	30.6	14.6	19.4	▲ 16.0	4.9
学校行事を通して地域のまちづくりに関わること	13.2	8.3	16.7	▲ 4.9	8.3
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用すること	5.6	0.7	8.3	▲ 4.9	7.6
自主的に学校施設を利用すること	9.0	5.6	12.5	▲ 3.5	6.9
その他	6.3	3.5	3.5	▲ 2.8	0.0
特にない	53.5	66.0	47.2	12.5	▲ 18.8

（５）今後の小・中学校との関わりについて

今後、小・中学校とどのような関わりをもちたいかについては、「特にない」を除くと、小・中学校の再編・統合に関する考え方に関係なく「学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めたい」が最も多くなっています。

小・中学校の再編・統合について考えが異なる人の間で、今後の小・中学校との関わりについて差が最も大きいものは「自主的に学校施設を利用したい」となっています。

	小学校の再編・統合について			中学校の再編・統合について		
	やむを得ない (A)	できるだけ避けるべき (B)	差異 (B−A)	やむを得ない (A)	できるだけ避けるべき (B)	差異 (B−A)
役職をもって学校と関わっていきたい	10.6	9.0	▲ 1.5	10.7	9.3	▲ 1.4
ボランティアで児童生徒を見守り育てる取組に参加したい	13.0	15.8	2.8	13.3	16.6	3.3
学校行事を通して子どもや地域の人との交流を深めたい	32.4	37.9	5.5	34.6	33.8	▲ 0.9
学校行事を通して地域のまちづくりに関わっていきたい	19.4	24.3	4.9	19.7	21.9	2.1
団体やサークルの催しに参加して学校施設を利用したい	9.9	13.0	3.1	10.4	11.9	1.6
自主的に学校施設を利用したい	10.2	17.0	6.7	10.4	17.9	7.5
その他	2.1	2.3	0.2	2.3	2.0	▲ 0.3
特にない	42.3	37.3	▲ 5.0	41.4	37.1	▲ 4.3

（６）小学校に求めること

小学校に求めることについて、小学校の再編・統合は「やむを得ない」と考えている人は、「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」が最も多くなっています。

一方で、小学校の再編・統合は「できるだけ避けるべき」と考えている人は、「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」と「地域との活動を通して地域への理解を深めたりまちづくりを進める」が最も多くなっています。

小学校の再編・統合について考えが異なる人の間で、小学校に求めることの差が最も大きいものは「地域との活動を通して地域への理解を深めたりまちづくりを進める」で、「できるだけ避けるべき」と考えている人の方が 10.1 ポイント多くなっています。

	小学校の再編・統合について		
	やむを得ない (A)	できるだけ避けるべき (B)	差異 (B−A)
家庭教育の支援を行う	38.7	32.8	▲ 6.0
放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する	47.9	47.5	▲ 0.4
地域との活動を通して子どもと大人の交流を深める	32.0	27.7	▲ 4.4
地域との活動を通して地域への理解を深めたりまちづくりを進める	37.3	47.5	10.1
地域住民のスポーツや学習、憩いの場として学校施設を開放する	20.1	26.6	6.5
地域の防災拠点として学校施設を利用する	29.2	36.2	6.9
その他	0.7	1.7	1.0
特にない	8.5	8.5	0.0

（7）中学校に求めること

中学校に求めることについては、小・中学校の再編・統合に関する考え方に関係なく、「地域との活動を通して地域への理解を深めたりまちづくりを進める」が最も多くなっています。

小学校の再編・統合について考えが異なる人の間で、中学校に求めることの差が最も大きいものは「地域の防災拠点として学校施設を利用する」で、「できるだけ避けるべき」と考えている人の方が 11.7 ポイント多くなっています。

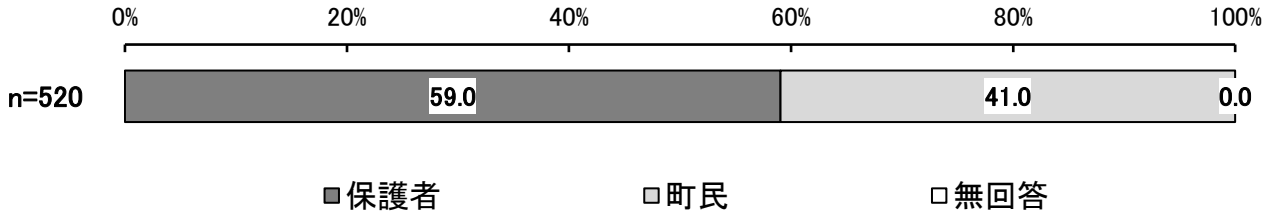
また、中学校の再編・統合について考えが異なる人の間で、中学校に求めることの差が最も大きいものは「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」と「地域住民のスポーツや学習、憩いの場として学校施設を開放する」で、ともに「できるだけ避けるべき」と考えている人の方が 9.2 ポイント多くなっています。

	小学校の再編・統合について			中学校の再編・統合について		
	やむを得ない (A)	できるだけ避けるべき (B)	差異 (B−A)	やむを得ない (A)	できるだけ避けるべき (B)	差異 (B−A)
家庭教育の支援を行う	38.0	32.8	◢ 5.3	38.2	31.8	◢ 6.4
放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する	27.5	32.2	4.7	25.9	35.1	9.2
地域との活動を通して子どもと大人の交流を深める	31.3	26.6	◢ 4.8	30.7	27.2	◢ 3.6
地域との活動を通して地域への理解を深めたりまちづくりを進める	42.3	50.3	8.0	44.0	47.7	3.7
地域住民のスポーツや学習、憩いの場として学校施設を開放する	26.1	27.7	1.6	23.3	32.5	9.2
地域の防災拠点として学校施設を利用する	30.6	42.4	11.7	34.3	38.4	4.1
その他	0.7	2.3	1.6	0.7	2.7	2.0
特にない	9.9	8.5	◢ 1.4	10.0	8.0	◢ 2.1

Ⅱ　回答者の属性

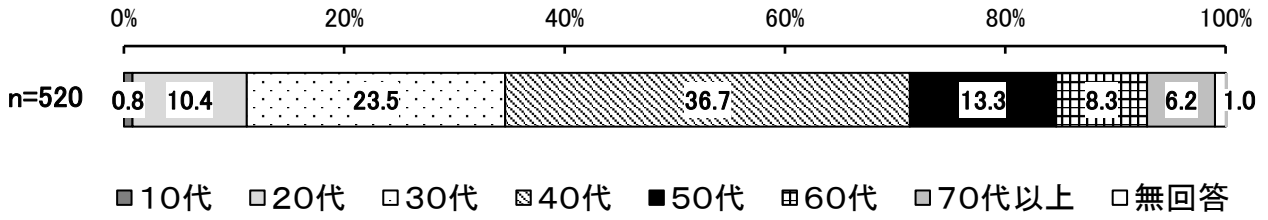
回答者区分

回答者の区分は、「保護者」59.0%、「町民」41.0%となっています。



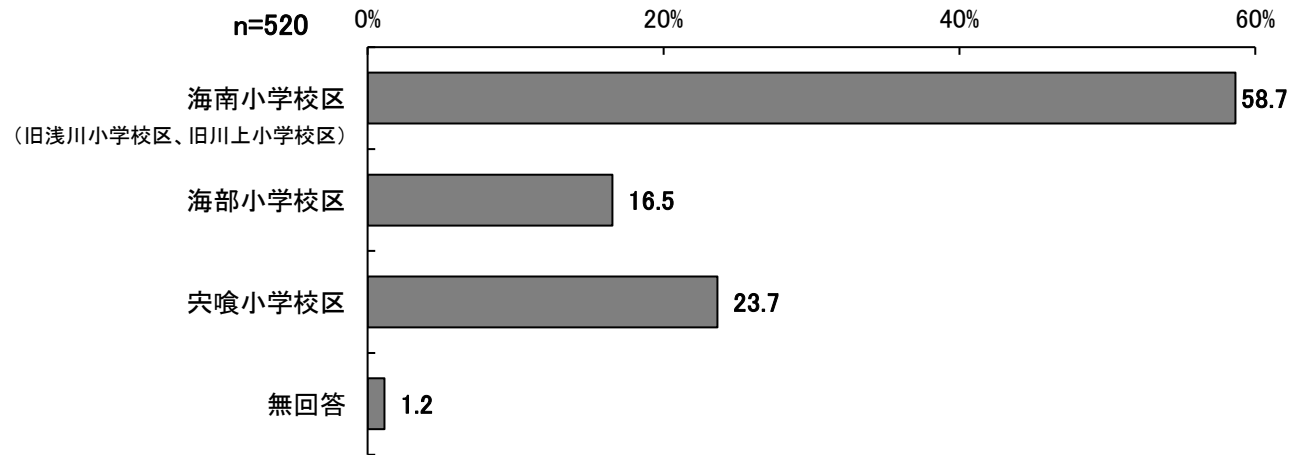
問１　年齢　あなたの年齢をお答えください。（○は１つ）

回答者の年齢は、上位から「40 代」36.7%、「30 代」23.5%、「50 代」13.3%、「20 代」10.4%、「60 代」8.3%、「70 代以上」6.2%、「10 代」0.8%となっています。



問２　居住地区　お住まいの地区は、どの小学校区ですか。（○は１つ）

回答者の居住地区は、「海南小学校区」58.7%、「宍喰小学校区」23.7%、「海部小学校区」16.5%となっています。



Ⅲ　集計結果

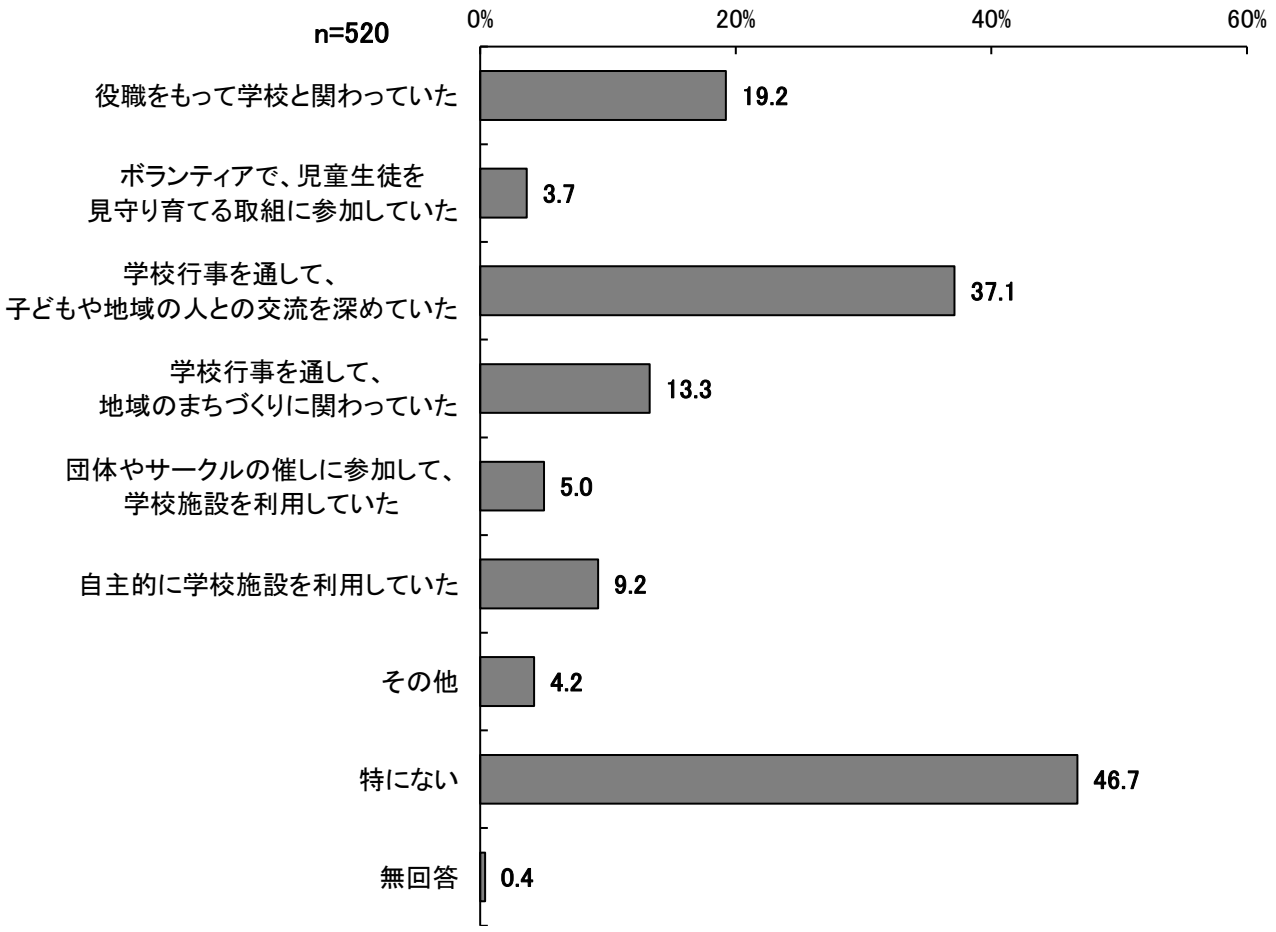
小・中学校との関わりについて

問３　コロナ禍以前の小・中学校との関わり

コロナ禍以前の３～５年前、あなたは小･中学校とどのような関わりをもっていましたか。
（あてはまるものすべてに○）

コロナ禍以前の小・中学校との関わりについて、上位から「学校行事を通して、子どもや地域の人との交流を深めていた」37.1%、「役職をもって学校と関わっていた」19.2%、「学校行事を通して、地域のまちづくりに関わっていた」13.3%となっています。また、「特にない」も 46.7%と高くなっています。

【全体】



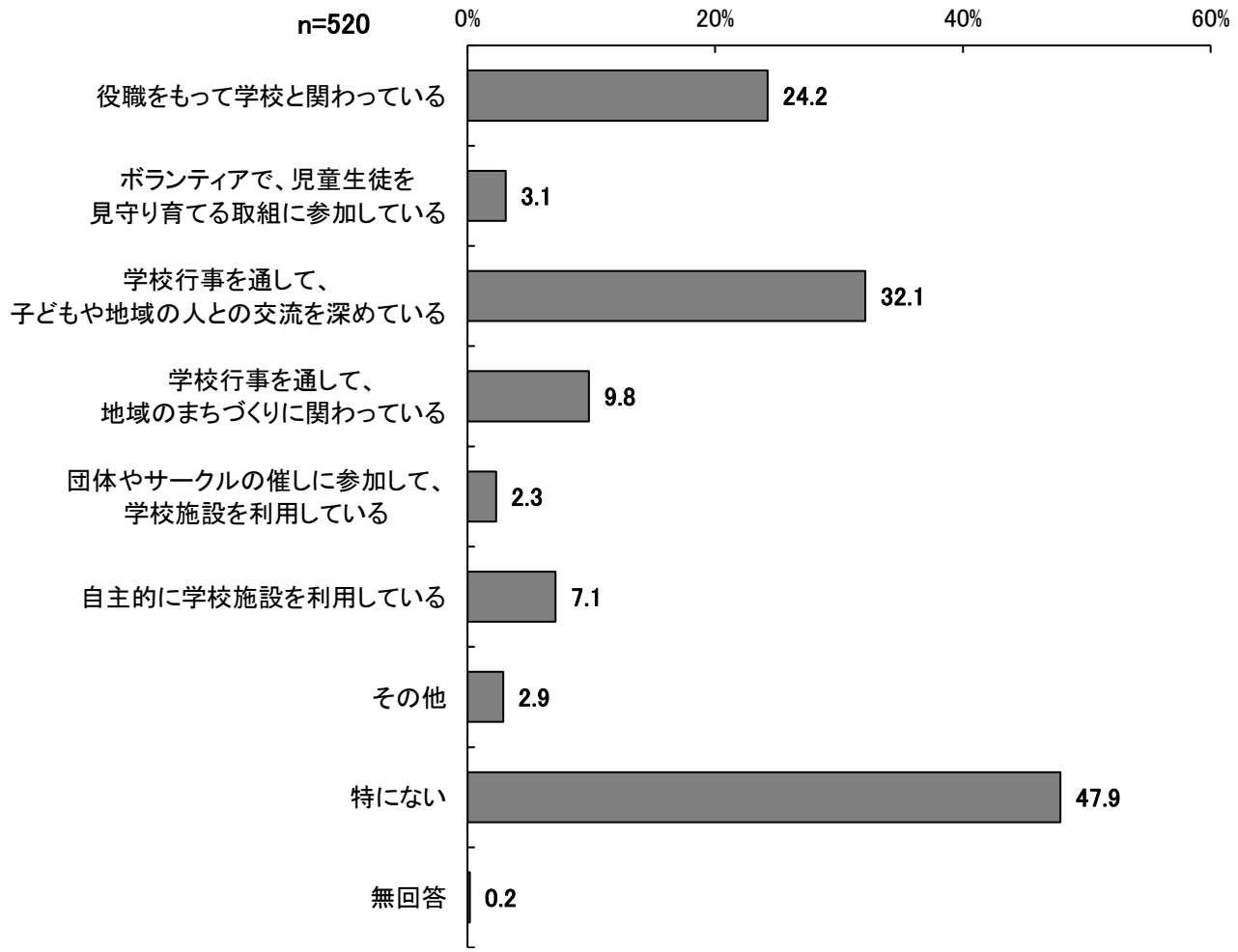
問４　現在の小・中学校との関わり

現在、あなたは小・中学校とどのような関わりをもっていますか。

（あてはまるものすべてに○）

現在の小・中学校との関わりについて、上位から「学校行事を通して、子どもや地域の人との交流を深めている」32.1%、「役職をもって学校と関わっている」24.2%、「学校行事を通して、地域のまちづくりに関わっている」9.8%となっています。また、「特にない」も47.9%と高くなっています。

【全体】



問５　今後の小・中学校との関わり

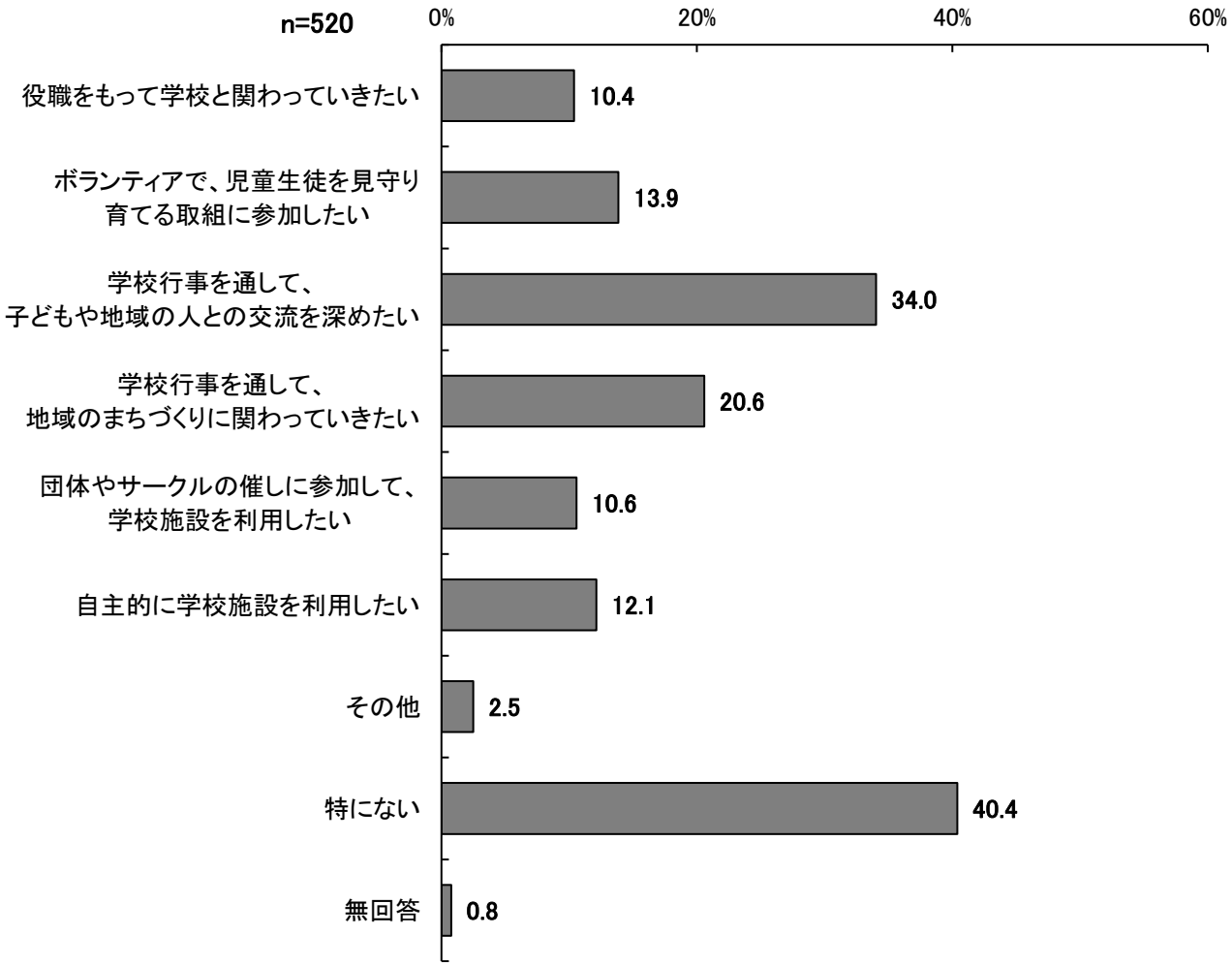
今後、あなたは小・中学校とどのような関わりをもちたいですか。

※就学前児童や小・中学生の保護者の方は、お子様が中学校卒業後を想像してお答えください。

（あてはまるものすべてに○）

今後の小・中学校との関わりについて、上位から「学校行事を通して、子どもや地域の人との交流を深めたい」34.0%、「学校行事を通して、地域のまちづくりに関わっていきたい」20.6%、「ボランティアで、児童生徒を見守り育てる取組に参加したい」13.9%となっています。また、「特にない」も 40.4%と高くなっています。

【全体】

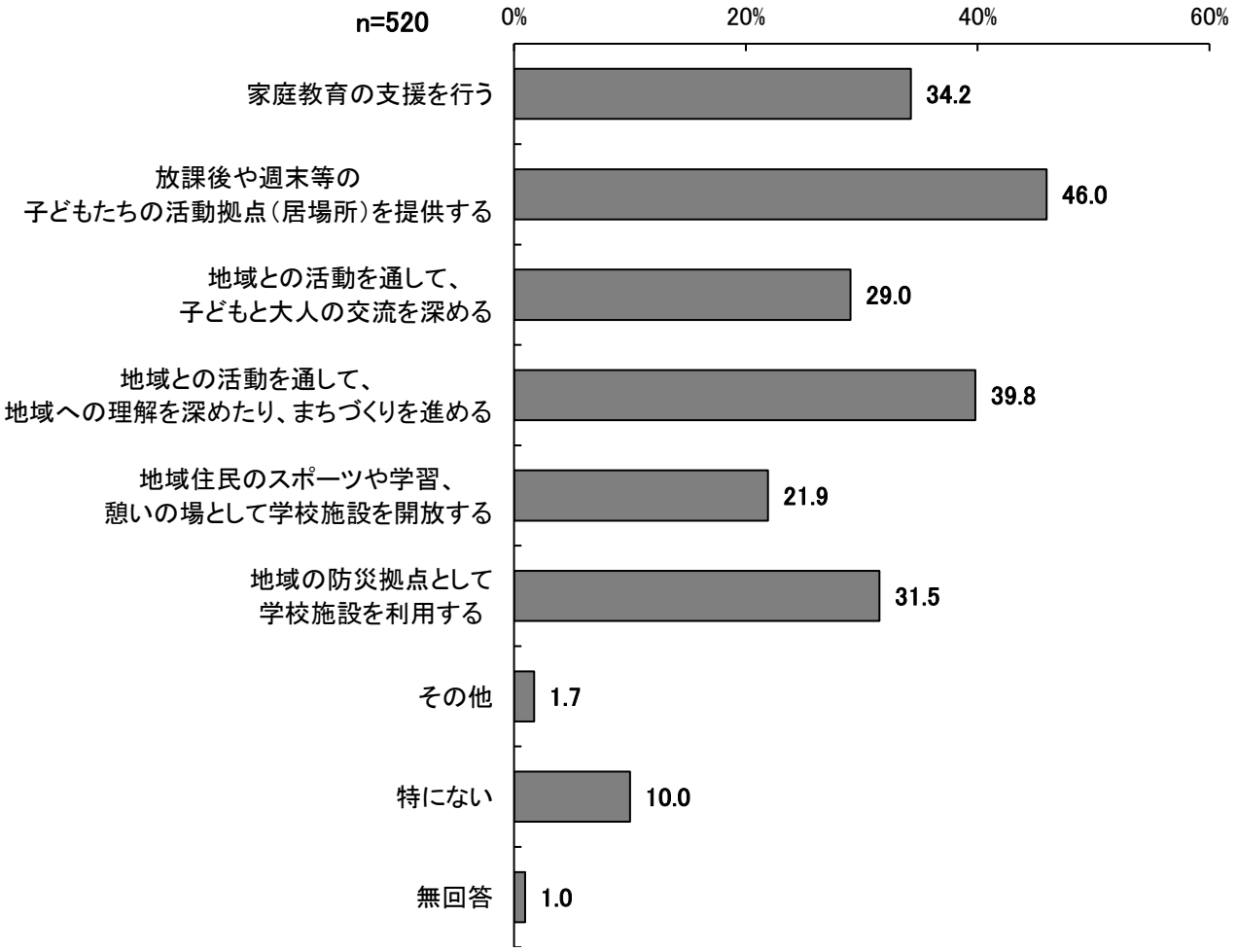


学校と地域のあり方について

問６　小学校に求めること　あなたが小学校に求めることは何ですか。（○は３つまで）

小学校に求めることについて、上位から「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」46.0%、「地域との活動を通して、地域への理解を深めたり、まちづくりを進める」39.8%、「家庭教育の支援を行う」34.2%となっています。

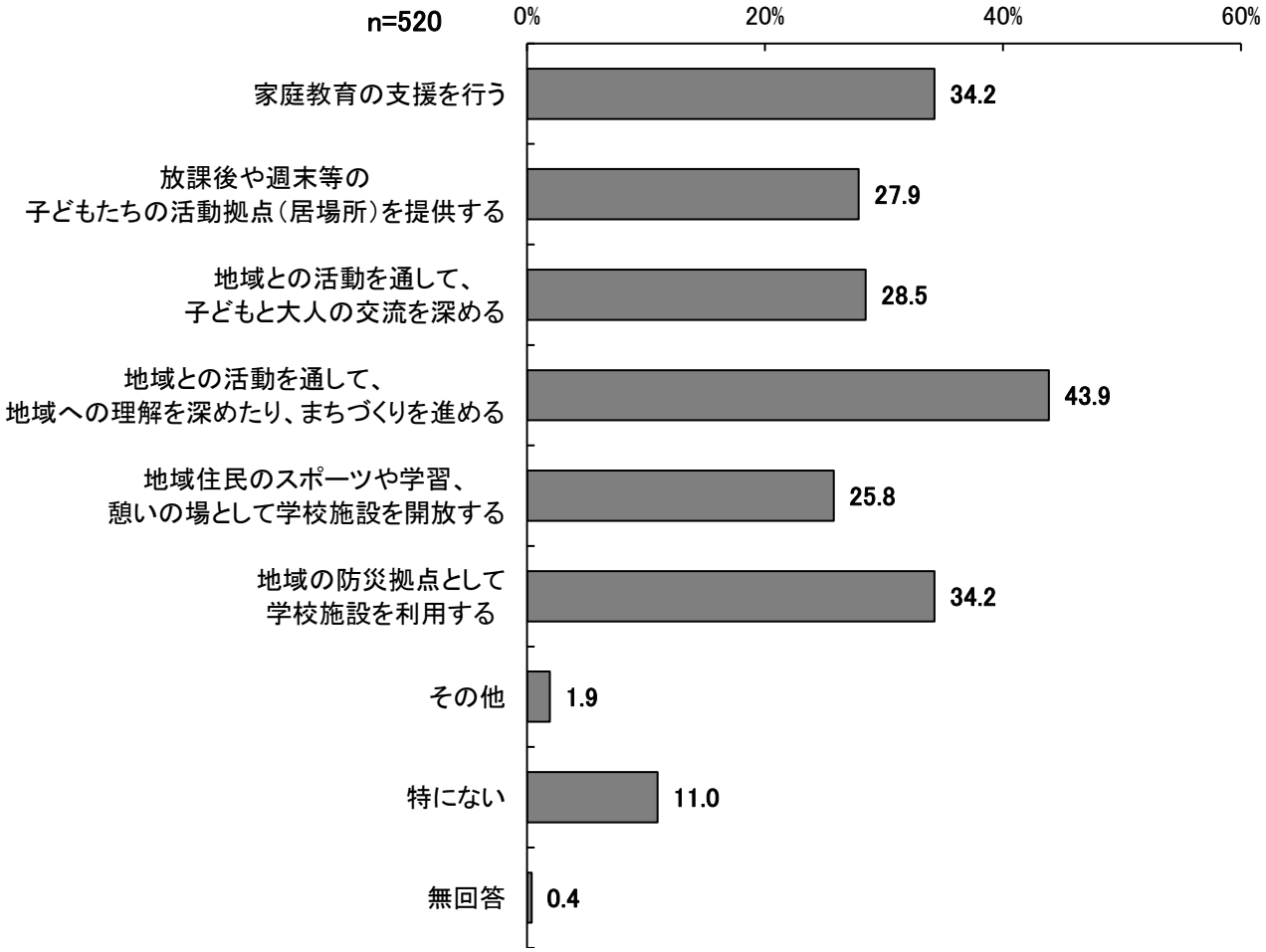
【全体】



問７　中学校に求めること　あなたが中学校に求めることは何ですか。（○は３つまで）

中学校に求めることについて、上位から「地域との活動を通して、地域への理解を深めたり、まちづくりを進める」43.9%、「家庭教育の支援を行う」及び「地域の防災拠点として学校施設を利用する」34.2%となっています。

【全体】



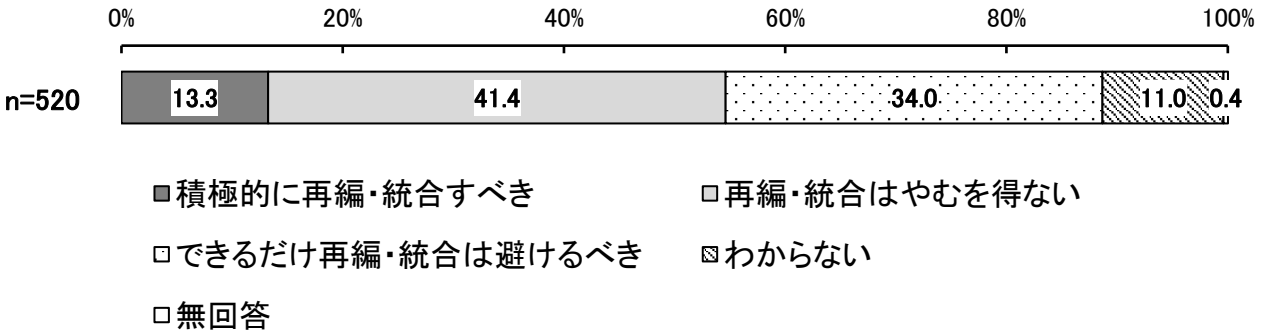
問８　町内の小・中学校の再編・統合について

海陽町の児童生徒数は減少し、小・中学校のほとんどが１学年１学級となっていますが、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(①～②それぞれに○は１つ)

①小学校

小学校の再編・統合について、上位から「再編・統合はやむを得ない」41.4%、「できるだけ再編・統合は避けるべき」34.0%、「積極的に再編・統合すべき」13.3%となっています。

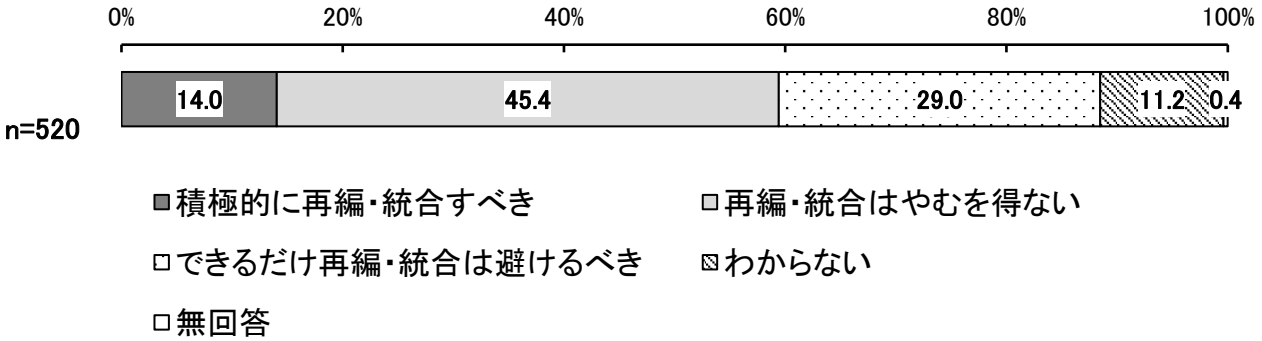
【全体】



②中学校

中学校の再編・統合について、上位から「再編・統合はやむを得ない」45.4%、「できるだけ再編・統合は避けるべき」29.0%、「積極的に再編・統合すべき」14.0%となっています。

【全体】



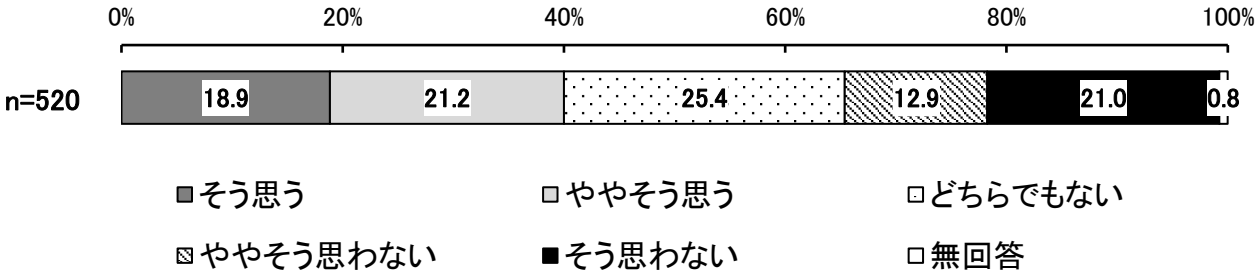
問９　「海陽町の小・中学校統合計画」について

平成２０年度に策定した「海陽町の小・中学校統合計画」には、以下のように書かれています。あなたの考えに最も近いものはどれですか。（①～③それぞれに○は１つ）

①「集団による教育の充実」と「指導体制の充実」のために、小・中学校のすべての学級でクラス替えができる規模にする。（1 学年 2 学級以上）

「海陽町の小・中学校統合計画」における小・中学校のすべての学級でクラス替えができる規模にするという考え方について、『賛成（「そう思う」と「ややそう思う」の合計。以下、同様。）』40.1%、『反対（「ややそう思わない」と「そう思わない」の合計。以下、同様。）』33.9%、「どちらでもない」25.4%となっています。賛成の方が反対を 6.2 ポイント上回っています。

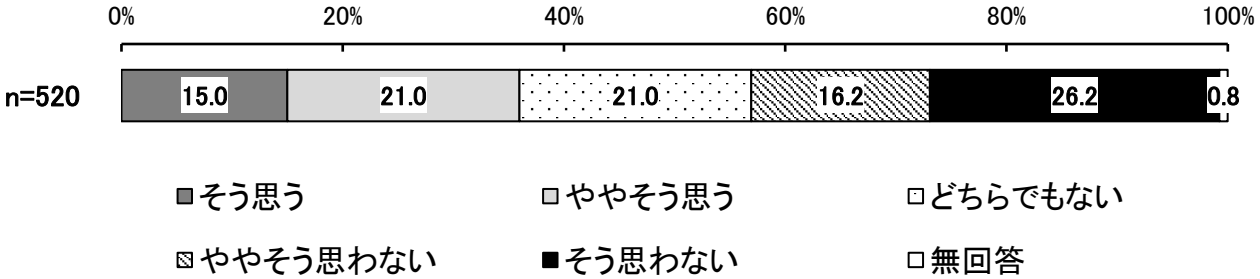
【全体】



②上記①を達成させるためには、町全体で「小学校 1 校・中学校 1 校体制」とせざるを得ない。

「海陽町の小・中学校統合計画」における町全体で「小学校 1 校・中学校 1 校体制」とせざるを得ないという考え方について、『賛成』36.0%、『反対』42.4%、「どちらでもない」21.0%となっています。反対の方が賛成を 6.4 ポイント上回っています。

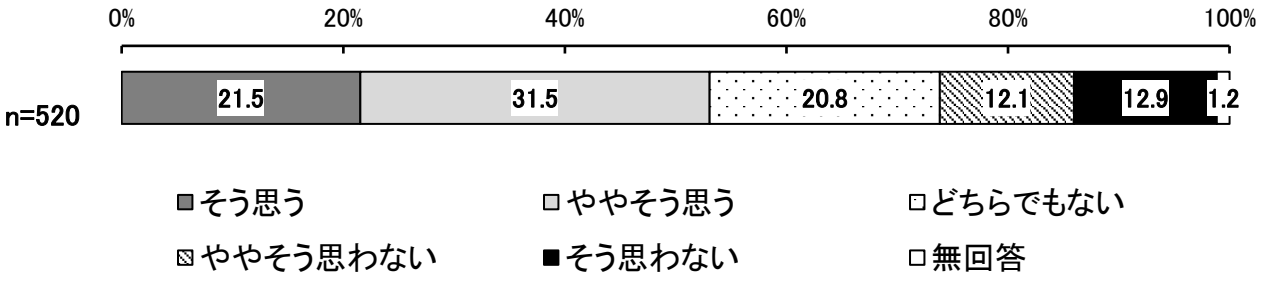
【全体】



③町の地理的条件を考えると上記②は厳しいため、町全体で「小学校２校・中学校２校体制」をめざすことが妥当といえる。

「海陽町の小・中学校統合計画」における町全体で「小学校２校・中学校２校体制」をめざすことが妥当といえるという考え方について、『賛成』53.0%、『反対』25.0%、「どちらでもない」20.8%となっています。賛成の方が反対を 28.0 ポイント上回っています。

【全体】



■そう思う　□ややそう思う　⊡どちらでもない
▧ややそう思わない　■そう思わない　□無回答

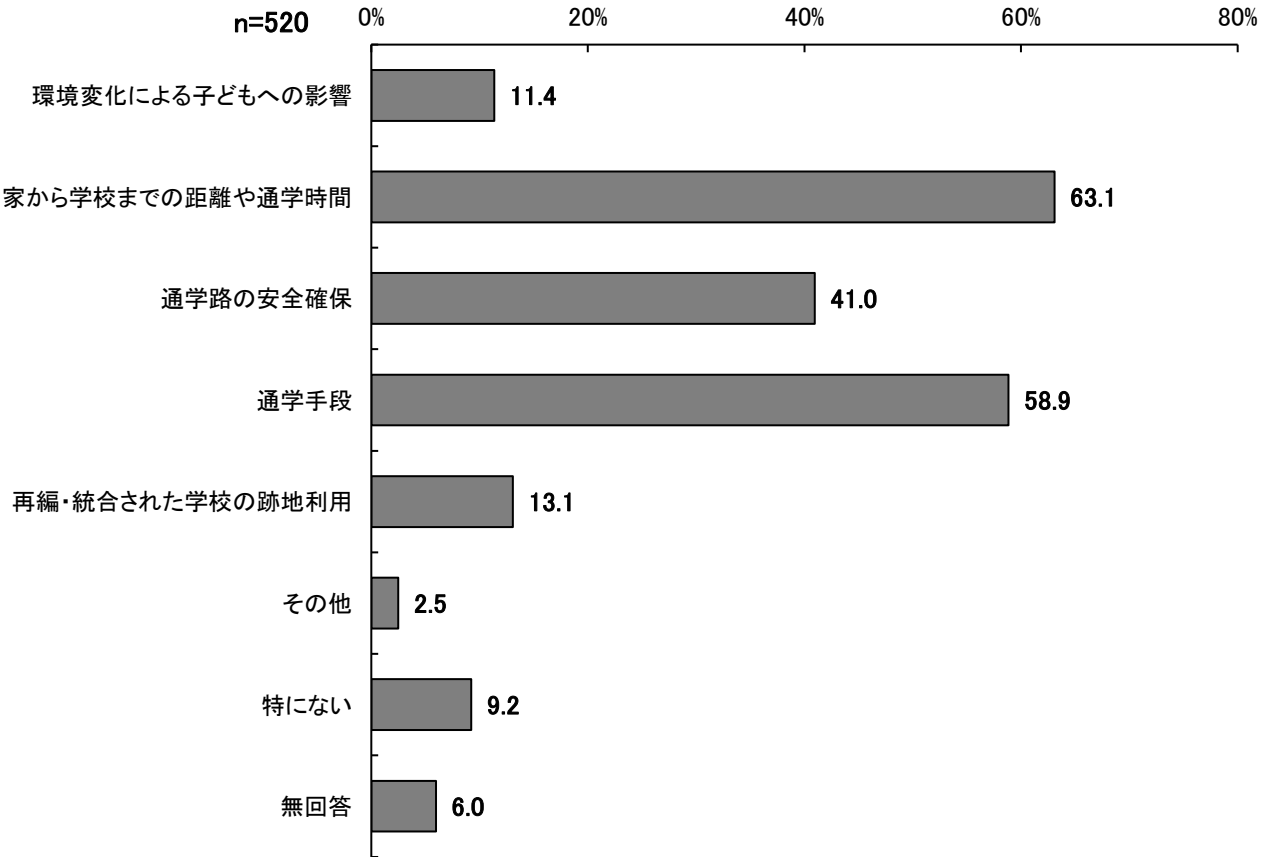
問１０　小・中学校が再編・統合される場合、心配なこと

仮に、お住まいの地区の小・中学校が再編・統合される場合、心配なことはありますか。

（○は３つまで）

仮に小・中学校が再編・統合される場合に心配なことについて、上位から「家から学校までの距離や通学時間」63.1%、「通学手段」58.9%、「通学路の安全確保」41.0%となっています。

【全体】



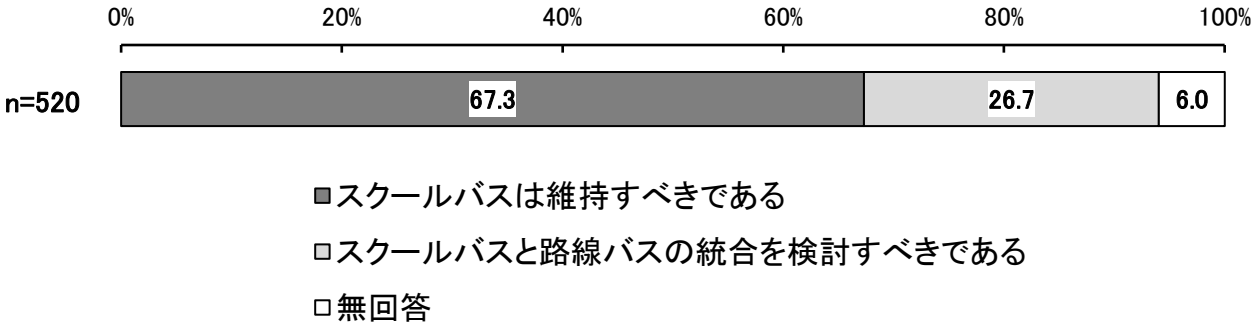
回答選択肢「１．環境変化による子どもへの影響」の具体的な内容

問１１　町営バスのあり方について

海陽町には、「スクールバス」と「路線バス（フリー乗降制）」の２種類の町営バスがあり、効率的な運用が求められています。これらのバスのあり方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（○は１つ）

スクールバスと路線バス（フリー乗降制）のあり方について、「スクールバスは維持すべきである」67.3%、「スクールバスと路線バスの統合を検討すべきである」26.7%となっています。

【全体】



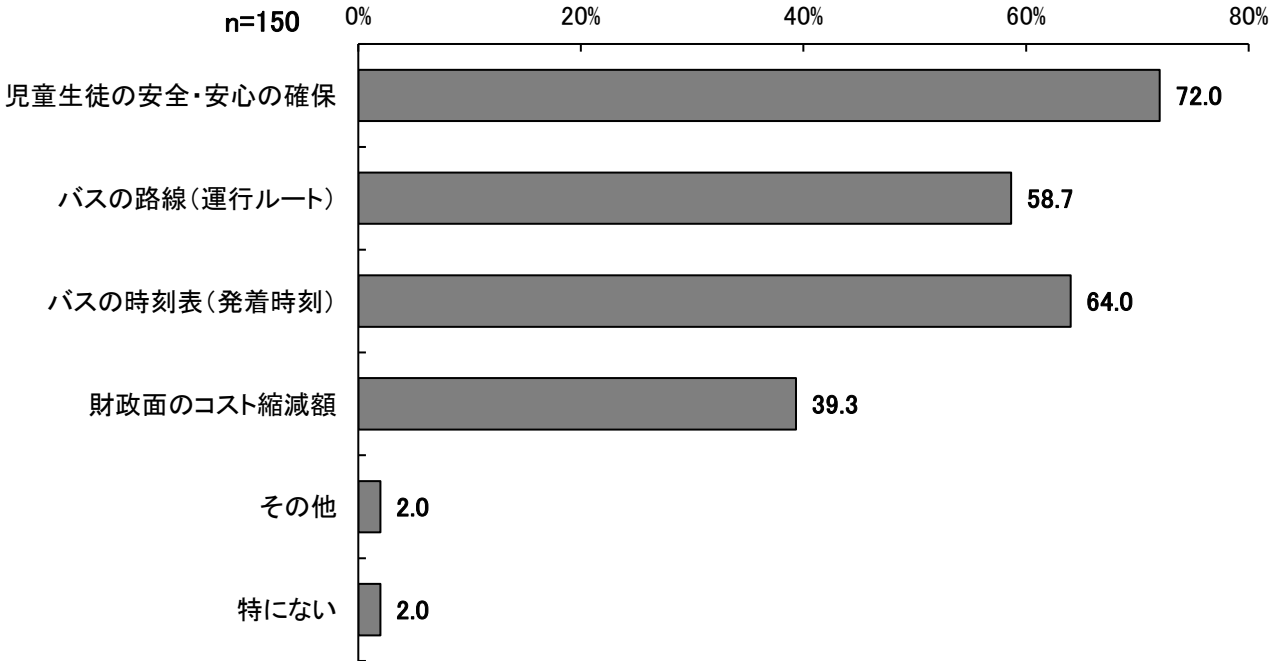
問１１－１　バスの統合を検討する場合、配慮すべきこと

問１１で「２」を選ばれた方におたずねします。

問１１－１　バスの統合を検討する場合、配慮すべきことは何ですか。（○は３つまで）

バスの統合を検討する場合に配慮すべきことについて、上位から「児童生徒の安全・安心の確保」72.0%、「バスの時刻表（発着時刻）」64.0%、「バスの路線（運行ルート）」58.7%となっています。

【全体】



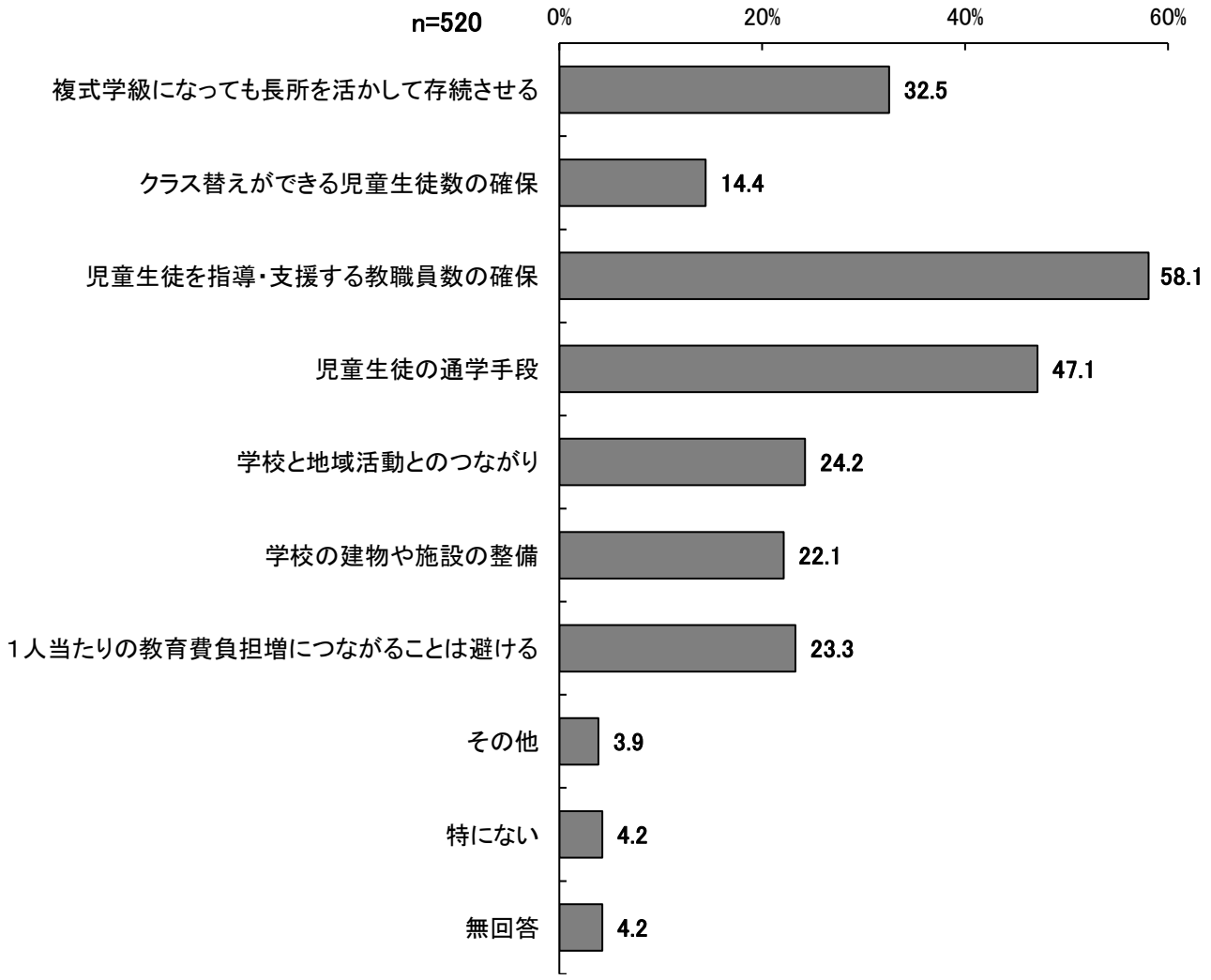
問１２　小・中学校のあり方を審議するにあたり配慮してほしいこと

小・中学校のあり方を審議するにあたり、配慮してほしいことは何ですか。

（○は３つまで）

小・中学校のあり方を審議するにあたり配慮してほしいことについて、上位から「児童生徒を指導・支援する教職員数の確保」58.1%、「児童生徒の通学手段」47.1%、「複式学級になっても長所を活かして存続させる」32.5%となっています。

【全体】



問１３　町の小・中学校のあり方や再編・統合に関するご意見

その他、小・中学校のあり方や再編・統合に関するご意見があれば、ご自由にお書きください。（自由記述）

※原文のまま記載しています。

■海南小学校区（旧浅川小学校区、旧川上小学校区）／４０代以下（38 件）

●子どもの人数が少なく、体育の時にチーム対戦ができないのでは？クラス替えがないとかわいそうな気がする。（２０代）

●地域に学校があることで町に人の流れが生まれ、活性化につながると思う。学校がなくなれば人口がだんだんと減るきっかけの１つになるのではないかと危惧している。（２０代）

●学校だけでは生徒数を増やすことはできない。海陽町に若い家族が少ない理由として仕事がない、アクセスが悪い等があげられる。これは県教委だけで解決しようがない。スクールバスと路線バスの統合も仕事減らすことにつながるので個人的には×。海陽町に住みたいと思われる町づくりが先決だと思います。（２０代）

●子どもたちの交友関係を広げるため、また、リーダーシップを取れる子が偏らないようにするためにもクラス替えができる規模の児童生徒数を確保できるようになればいいと思う。スクールバスと路線バスの統合を検討する際遠方の子どもたちの通学にはスクールバスにこだわらず、タクシーを利用する方法もあると思う。宍喰地区は海部海南地区からも遠く離れており子どもたちの通学の面で心配があるが、海南・海部小学校は統合できるのではないかと考える。もし統合されて使用されなくなる校舎ができるのであれば、統合後の活用方法（サテライトオフィスにするなど）も併せて検討していく課題だと思う。（２０代）

●あまりにも少人数というのは、部活動や行事にもマイナス面が多いと思います。現在でも、部活動等は人数が確保できておらず、合同チームが多いです。（３０代）

●人数が少なくなってきていますが、クラス替えはあってほしいです。（３０代）

●共働きの家庭がほとんどだと思うので小学校低学年の子どもたちが放課後安心して過ごせる環境を整えてほしい。（３０代）

●小・中学校の給食があまりおいしくないよとよく耳にします。子どもたちにも食の楽しみをもっと与えてあげて欲しいです。給食の改善を強く願っています（３０代）

●再編・統合時には子どもの人数が多い地域に統合すべきだと思う。多くの子どもがスクールバスで通うなどといったことがないよう検討願います。（３０代）

●再編、統合に関しては児童の数に応じて一番効率的な運営を行うのが良いと思うが、問題は海陽町の将来を担う子どもたちが減少し続けている事であって、子どもたちがこの町で一生暮らしたいと思える町に、出来て来れなかった事が残念です。タイミングとしては遅いですが、今いる子どもたちがこの町に留まる理由を私は作って行きたいと思います。そして外に出てしまった人たちも戻ってきたいと思える町にしたいと思います。海陽町一丸となって、町を盛り上げて行きましょう！！（３０代）

●小学校と中学校の統合は別問題である。小学校のうちは、家から近い学校へ（歩いて登下校できる距離）行き、その中で地域の人に触れ合ったり、交通ルールを身につけたりすることが大切。また、学習内容も難しくなってきているため、今のまま、小集団で、手厚い教育をし、基礎がためをしてほしい。また、様々な面で支援を必要としている子、集団の中でまぎれてしまいそうな子を見落とさないようにする必要があり、少人数クラスで先生からしっかり目や声をかけられ、友達との絆を結び、居場所を作ってほしい。だから、小学校は統合なく、今のまま

育を期待している。中学校では、再編、統合は仕方ないかと考える。しかし場所は津波被害を考えると安全なのは海陽中学校しかないと思う。政治をすすめる大人の利益を考えず、この町に産まれてきてくれた宝物である子どもたちを大切にすることを第一に考え、住民や保護者の意見をきちんと聞いてほしい。よろしくお願いします。（３０代）

●1 学年に人数少なくても 2 クラス制にして欲しいです（３０代）

●海部小と海南小は統合するべきだと思う。距離もそこまではなれていないので。宍喰小は離れているので住民の意見を聞いて、統合しても良いという意見が多ければ統合すべき。少人数よりも適度に多いほうが色々なお友達や先生、保護者等に出会え、その分学ぶこと経験することも増えると思います。（３０代）

●小中は必ずいじめがあります。私は小・中でいじめにあいました。逃げ道を作ってあげてほしい。町で一つの学校なら逃げ道がなく、町外に出るしかない。町にとってもデメリット。きちんと先生が生徒と向き合えるようにしてあげてほしい。（３０代）

●川上の地域から海陽中学校へ通うには自転車だと坂も多いし、外灯もあまりないので心配です。保護者が車で送り迎えできればいいけれどうちは母子家庭だったので大変なときもありました。放課後、高校受験のため残って勉強するときもあったので、子どもたちが安心して学べる環境づくりに取り組んでいただけると幸いです。（３０代）

●家から自転車で、学校まで遠い人の安全確保をしてほしいです。（３０代）

●子どもたちの選択肢を狭めないようにしてほしい。例えば人数が少ないから（統合しない場合）やりたいスポーツができない（野球・バレーなど人数がいるスポーツ）とか家から遠いからできないとか。もちろん親は協力したいと思っているけど働いていたら限界がある。そんな時に町の協力で選択肢が少しでも増えるなら親としても本当にうれしいと思います。逆に統合しても同じで、送り迎えの問題が大きいと思うので、そこは考えてもらいたいです。どちらになっても子どもたちにとって何不自由なく自由にのびのび学校生活が送れることを願います。（３０代）

●タブレット（スクリーン）を利用した学習を控える選択肢を用意してください。せっかく海陽町の自然、人、体験・・・からだ全体をフルに使って学ぶことができる環境がここにはあるのに、画面の人工的な光を見ることに異常に集中させ、最小限の指・手の動きで済ませるという時間をこんなに増やして・・・大失敗です。すっかり運動能力が落ち、脳の健全な働きも落ちました。タブレット学習に体質などがあっている児童生徒がこの学習を選択できることは賛成しますが、体質などが合わない児童生徒にも一律にこれを押し付ける現在の教育方針・実務運用には反対します。タブレット学習なしでも苦しむことのない学習環境の整備を、その選択肢を問題なく選ぶことのできる実務運用を早急に実現してください。実際にタブレット学習を経験して、これは一人一人の児童生徒の健全な成長の為ではなく、GIGA スクール推進のポイント稼ぎとして子どもたちや学校、家庭が利用されているに過ぎない、と実感しております。がっかりです。心身が健全に成長していれば、聞きのオペレーションはいつでもできます（実際ただのオペレーション体験ですよね・・・）。子どもの内に、心身の健全な成長を阻害するような政策を子ども・学校に無理やり押し付けないでください。DMV などの広告塔としても子どもたちや学校が利用されることも大反対です。経済難だからと、金もうけのために子どもや学校を利用しないでください。DMV の PR 動画も観ましたが、洗脳されたカルトの町、海陽町というタイトルがぴったりです。非常に悪いです。（４０代）

●長期休みでの 1 日当たりの金額が高くて利用しづらいです。それくらいですね！いつもありがとうございます。（４０代）

●小学校は心の故郷なので、日本の一極集中を防ぎ、将来地元に成人した子どもたちが戻ってくるきっかけにもなりうる。小学校を統廃合して出身の小学校がなくなってしまうと、U ターンし

ようと考える心のよりどころの一つを失ってしまうことになる。地元の活性化のためにも、学校の統廃合は反対しています。（４０代）

●小学校は、災害避難所にもなる。近所の小学校が閉校し、その建物への人の出入りが少なくなると、避難所であるその建物の維持管理も難しくなり、しいては緊急時の利用も、しにくくなってしまうため、学校の統廃合は反対です。（４０代）

●海部小と海南小の統合を早急に希望します。海部小は少人数になっているにもかかわらず大規模な学校設備で、維持管理費がかかりすぎているのではないでしょうか。先生の確保が大変難しい中で統合することにより、コスト面や先生の確保、又生徒も多人数の中で人間関係や勉学等学べることがたくさんあると思います。（４０代）

●PTA は廃止してほしい。夜集まるのは反対！！コロナで行事も少なく、PTA も活動が少なくなり困ることは全くなかった。PTA 役員やりたい人なんていないと思う。（４０代）

●今後来るであろう地震や津波に対して、どの場所に学校がくるのかを検討して欲しい。その際、通学手段としてスクールバスなどを継続して欲しい。（４０代）

●発達障がい児のある子どもたちが、学校生活で困る事がないように支援して欲しい。（４０代）

●発達障がい児の子どもの気持ちや行動などを理解して接してくれる先生を増やしてほしい。（４０代）

●学校と保護者が協力して、子どもたちが安心して暮らしていけるようにして欲しい。（４０代）

●小学校２校、中学校１校が望ましいと思います。（４０代）

●小学校に関しては統合はしないほうがよいと思います。中学校に関しては統合はしてもよいと思います。（４０代）

●それぞれの学校には良いところや伝統があるので単に統合すればよいとは思わない。学校が減ると地域が衰退してしまう可能性もある。少人数でも学校は残す方が良いと思うが、子どもの人数が激減してくるとそうも言えないので、その時は再編は必要だと思う。ただ統合した後、使われなくなる小学校がきちんと利用され、地域に開かれた場所であってほしい。浅川小学校も荷物置き場にするだけでなく有効活用してもらいたい。（４０代）

●学級の人数が少ないので海南小学校と海部小学校は統合した方がいいと思います。又は海部小学校をフリースクールなどにして学校が選べたら全国の公立校でフリースクールはあまりないので移住してくるファミリー世帯が増えて子どもが増えるのではないかと思います。（４０代）

●小規模校のよさはもちろんあると思うが、固定された人間関係、言わなくても伝わる人間関係、すぐに手助けできる教員の存在が、個人の社会性を育てる上で、大きく作用してしまってはいなかと心配になる。一方、通学手段がなければ大変なのでスクールバスは手厚さがいる。特に中学校は部活動で帰る時間もバラバラなので、30 分から１時間おきくらいの運用が必要かもしれない。平日朝夕にほぼお客が乗っていない DMV などを活用出来たら最高だと思うが融通はきかないだろうか・・・。サイズ感、小回り感もぴったりで無駄がなくてよいと思う。通学の手段さえ確保できれば、保護者も安心できる。（４０代）

●子どもが少なくなっているのはわかります。学校が学び合う場なら多人数が良いことも、少人数が良いこともそれぞれあると思います。学校がたくさんの人とふれ合える場所と考えるなら統合も必要だと思いますが、海陽町がこれからも元気な町である為にも人がたくさん集まる町にならないと統合しても人が減り、子どもが減ると思います。（４０代）

●中学校は再編・統合し、土曜授業の再開をする。統合（教師も含め）により１クラスの人数が何人になるかは不明だが、おそらく２クラス編成では。教師の人数は確保できている（？）ため、公務員としての週休二日制度は守られる。土曜授業は２，３時間目までとし、部活をして午前中で終了。平日の授業のコマ数は減るため、早く部活に取り組める。そして早く帰宅できる。

１クラスに対して担任以外の教師を何人か配置。数人の教師で管理し、指導することで、質の良い教育を子どもたちが受けられることを願っている。（４０代）

●将来的に再編・統合は避けられないと思います。（４０代）

●メニューを豊かにして、選択的通信教育の充実をしてほしい！！（４０代）

●人口減少に伴い、子どもの数も少なく、統合は仕方のないことだと思う。複式学級も利点はあるだろうが、同級生の中で勉強も運動も互いを認め競い合いながら成長していくのが良いと思う。統合され、廃校となった周辺地域は寂れていくであろう。廃校舎が町民の憩の場として活用されることは勿論であるが、町が活性化される使い方を模索してほしい。（４０代）

●海部小学校の人数減少を懸念しています。海南小学校との合併も今後仕方ないかとは思いますが、宍喰小学校との３校合併となると通学の問題や、地域から子どもの姿や声が聞こえなくなるのも、淋しいのでは（特にお年寄りの方が）と思います。中学校は２校合併に賛成です。年齢的にも沢山の仲間と切磋琢磨し、学び合うことが望ましいのではと考えています。この地域ならではの温かさにふれながら、心豊かに健やかに子どもたちが成長していってくれることを願っています。（４０代）

■海南小学校区（旧浅川小学校区、旧川上小学校区）／５０代以上（15 件）

●「子どもがいなくなったから統合は仕方ないよね」で統合し続け、県南から子どもの声がなくなっては、遅いです。画一的な教育方法ではなく、その土地色などを取り込み、偉人等を輩出するようになれば、人も集まってくるのではないでしょうか。（５０代）

●まず、少子化により海部高校に三校が統合して良かった点は何か？海南中学校と海部中学校が統合して子どもの為になったことはあるのか？統合して良かったと思っていない人の方が多いと思う。まず、過去の統合の実態を調査し、問題点・改善点を挙げてほしい。浅川小、川上小、海部西小、海部東小それぞれが長年築き上げてきた良さをごっそりなくしてしまったのではないかと思う。子どもは、地域の宝なのでお金をかけてほしい。国を基準ではなく海陽町の特別支援にかけるお金をもっと有効に使ってほしい。学級内の先生が複数いてくれるがあれの教育効果は上がっているのか見てて疑問である。学力向上は、生きていく上での生活水準の向上でもあると思う。不登校率はどうなっているのか知りたい。学校の授業の理解度、学校現場における教育七五三。高校で七割、中学校で五割、小学校三割が落ちこぼれ。生活態度のみだれや家庭教育力の低下による現状があるなら、統合はすべきではないと思う。（５０代）

●少子化の為、統廃合が進むのはやむを得ないと思いますが、それにより子どもが体力的、時間的に負荷が増すのであれば問題があるように感じます。国や県がこう言っているからといった上意下達を頑なに守るのではなく、その地域の実情に合った方針、やり方があっても良いのではないかと思います。柔軟な対応を望みます。（５０代）

●小学校はスクールバスが利用できるので良かったですが中学校になって町営バスになり全く学校への対応が出来ていないため子どもの送迎に一度ふりまわされている。（５０代）

●子どもの数が減少しているので統合は自然な流れであると思う。（５０代）

●今後、児童・生徒の数が減少することになると思われるので、統合に関しては慎重に審議をしてもらいたいと思います。（５０代）

●人口を増やす事が最優先に考えるべきたど思う。その為には企業誘致などを行ってほしい。高齢者ばかりの町になってしまえば、財政どころか昔の「オバ捨て山」が出来かねない。役場の人間たちが自分だけ良ければ良いという考えを捨てて、もっと今後の町が活性化するにはどうしたら良いかを考えてほしい。町議ももちろん含まれる。今ある資源は少ないのだから、増やすことを真剣に取り組まなければ人口なんて増えないと思う。凝り固まった昔からの閉鎖的な考えを

捨てなければ今の町はなくなってしまうと思う。又、きちんと 3 年後はどれだけ海陽町（例）の人口が減ってしまうのか等をきちんと住民に理解してもらい、本当に大変な事になると知ってもらうべきではないでしょうか？（５０代）

●今後少子化は進むばかりで再編や統合はやむを得ない。いい移住や起業などをすすめ、若い人を増やす。子育ての支援を充実させて定住してもらう（千葉県のように）。（６０代）

●国が進める再編・統合をしても何も良い結果が出たことはありません。私は県職員 OB ですが、正に身を持って体験しています。小中学校の再編・統合も、結局は財政負担の軽減以外の何者でもありません。私は大阪から S57 年に海南町に移住してきましたが、小学校が廃止されてからの地域の不活性化は著しいものがありました。隠岐諸島の自治体では、小さな学校ながら都会からの日内留学生（徒）が多数来ています。ここに地域の小中学校を活性化させるヒントがあるはずです。日内留学生を集めることなど魅力ある教育を行うことで地域も活性化させることができると思います。結局、合理化の名の下に財政負担の軽減政策に乗っかると金額に見合ったそれだけの結果しか生まれません。（６０代）

●子どもたちは地域の宝です。今後とも大切に育てていただけますようお願いします。（６０代）

●学校が休校になると地域は必ず疲弊し必ず人々の交流も無くなります。どうにか学校がなくなっても体育館や運動場の活用をして頂き、子どもの声が聞こえるよう出来るだけ活用して頂きたい！人口減の為、運用は難しくなりますが教育と医療が消滅していくとこの地域は未来がなくなり、阿南方面への移住も起こります。教育は大変大事な事と思います。（６０代）

●10 年後予想される児童・生徒数の正確な把握。決して甘く見積もらないこと。基本となる数字を読み誤らないこと。計画は作って終わりでないこと。チェックしながら臨機応変な対応。（６０代）

●小規模校であれば、生徒一人一人に目が良く届き先生方との心から交流信頼関係を築きやすく勉強の成果も上げやすそうに思うけど海陽町における新生児数を考えると小規模ところの児童数でないと・・・。町で１校又は２校に統合して一クラスの児童数をある程度確保して集団としての組織指導や集団の中での多様性、協力、能力など社会性も伸ばしやすそう。教員数も統合することで多くなり生徒指導の充実も図れる。ただ通学圏が拡大したら通学時間や通学方法など、子どもに負担がないようにと思う。（６０代）

●子どもが少ないので統合したらよいです。（７０代以上）

●勉強も運動も競争できればいい。クラス人数が多い方がいい。何年も複式学級ならばそろそろ決断すべき。（７０代以上）

■海南小学校区（旧浅川小学校区、旧川上小学校区）／年齢無回答（１件）

●今いる生徒をどうやって集めて行くか？という問題ではないと思います。海陽町の人口が減っていく一方な事に重点を置いて、どうやったら子どもがいる家庭を海陽町に呼び込む事が出来るか？ではないでしょうか？減ってるから合わせて増やすのではなく、現状を良くする為に私たちに何が出来るか？だと思います！！（無回答）

■海部小学校区／４０代以下（１５件）

●少ない人数の学校より、多い人数の生徒がいる学校に子どもを通わせたいと思っています。少人数だと閉鎖的にもなりやすいと思うのと、より多くの友達と関わって社会性を子どもなりに学んでいってほしいです。私自身も小・中学校と少人数だったこともあり子どもには生徒がより多くいる学校へ行ってほしいと強く思います。（２０代）

●同級生が数人しかいない学級で過ごすより、早く統合して友達がたくさん居る学級で、学習などをしてほしい。海部、海南小学校を統合するべきだと思います。海南小学校に行かせたいのに、送迎バス等がないので困る。数人しかいない学級、学校には行かせたくない。（２０代）
●統合を検討している理由をはっきり教えてもらいたいです。うちは、幼稚園に通っていたので、みんなと一緒の海南小学校に上がらせてほしいといいましたが、それを許すと地区がすたるといわれて、うちの子は１人、知らない人だらけの学校に行きました。その下もそうです。次に上がる子もそうです。２人とも友達もできて楽しそうに通っているので、いいですが、小学校も地元愛を教訓にして、いるのに、統合とかびっくりです。二度とない子ども時代に何が大事かを重きにおいて、検討してもらいたいです。私たちには、何も決めることができないので。（３０代）
●教師の数が足りず、再雇用などの人員がいなければ教師の人数が確保出来ないのであれば、統合を考えても良いのではと思う。しかし、少人数だからこそ今、可能になっている授業もあり、それが統合によりなくなってしまうのは残念だと思う。クラス替えは、友人関係や学校生活などを維持する上で、あれば好ましいとは思う。国の基準にそって、３５人以上いなければ、２クラスにできないのか。教師の人数が確保可能ならば、もっと少ない人数だとしても、全学年２クラスにしてもいいのではと思う。（１クラス１０～１５人程度でも可能ならば）（３０代）
●絶対にもうこれ以上、学校の数を減らしてほしくありません！！人数が少ないからまとめてしまうというのは少し乱暴に思えます。そもそも国や県の示す適正規模の基準が本当に適正とは思えません。１クラス 35～40 人は多すぎると思います。私自身、県外の大人数の学校（１クラス 35 人×６クラス）というところへ通っていましたが、人数が多いと、どうしても一人一人、先生にていねいに対応してもらえないし、リーダー的な子を中心にクラスがまわるので、おとなしい子たちはクラス内で存在意義が薄くなりがちで、いてもいなくても同じような感じでした。（そうして不登校になる子もたくさんいました）。今、自分の子どもが海陽町の学校に通っていて最初は人数の少なさにびっくりしましたが、先生方が本当に手厚くよく見てくれているし、全校みんな友だちなのがすごく素晴らしいと思いました！子どもたちもイキイキと個性を伸ばしているように見えます。学校の維持は、人員確保やコスト面で大変だとは思いますが、統合はなんとか避けていただきたいです！（３０代）
●少ない人数だから（子どもの数）再編・統合も必要な場合もあると思いますが（同級生がいない…とか）出来るだけ少人数だからこそ目が届く事もあるような気がするのでもう少し様子を見てもいいように思います。逆に、少人数だからこそ出来る事をやってほしい。給食をオーガニック食材にする。せめてお米だけでもネオニコフリーのものを。牛乳をやめる（豆乳やアーモンドミルクとか）お茶でいいのでは？（地球温暖化の大きな原因の１つです。肉食も。）せめてアニマルウェルフェアのものを。フリースクール的な子どもがやりたい事を自分で決めて出来る時間があるといいと思う。子どもに「義務」ばかり教えるのでなく、「権利」について伝えていってほしい。哲学や思想を学ぶ機会を。（３０代）
●小・中と統合なら、高校までエスカレーター式にしてほしい。高校受験して地元民がおちて県外から合格した子が入って「謹慎」やら「退学」になっていると聞きました。（３０代）
●海部中学校を再編してほしい。（３０代）
●30 代、海部地区出身ですが、私自身が小中の頃にクラス替えを経験したことがないので、あまりそこに重きを置く理由がピンと来ないです。当時から再編・統合は仕方ないという感覚でいました。現在、再編・統合となった場合の当事者ではないので現役の方々の声とかは分かりませんが子どもたちにとって最良の答えになればいいなと思います。（３０代）
●各学校とも生徒数は少ないですが、その分、各学校の特色が出せている。コンピュータや英語のきめ細やかな指導も今のままの方が優れて行える。学校が減ると、保護者の選択肢が減り、町外

への人口流出にもつながり、地域の協力が失われる。「学校が多いこと」は、社交的にはプラスのステータスであることを思い出してほしい。一度廃止したら、もう二度と元には戻らない。みんながんばっているのです。地域のために頑張れるって素敵です。どうか生きがいを奪わないで。（４０代）

●何より子どもたちのことを一番に考えてほしいです。（４０代）

●最近はタブレット教育導入で教育の本質、学力向上への教育が十分できているのかわかりにくくなっている。先生方の負担も多く、結果子どもたちにとって十分な教育ができなくなっているのではと思うこともある。地域住民への説明はしっかりとしていただきたいが時代は日々めまぐるしく変化しているので統合をするのが望ましいと思う。子どもは新しい環境にも慣れていける。多くの友達や先生と出会い、多くの人の考え方と出会い、成長してほしい。（４０代）

●出来るだけ統合はしないで欲しいと思うが、学校の数が多いほど、優れた人材の確保が難しくなるのではないかと思う。（４０代）

●小中の統合があるのなら、空いている校舎に中高の支援学校を設立してほしい。近年発達障がいの子どもは増え、行き場を失っている。障がいのある子どもも他の子どもと同じように同じ町内で教育を受ける権利がある。（４０代）

●小中学校は、小規模になっても地区に１つは必要だと思う。（中学校の場合、仕方のないところはあるが）地域の良さがあり、育っている、生活している場所で子どもに教育を受けさせたい。統合するとどうしても小学校のある場所が中心となり、吸収された（そう言わざるを得ない）小学校側は子どもたちの声が消え、活気もなくなっていく。子どもにとっては、生活していない他地域の学習が中心となり、実感を伴った学習にはほど遠い。統合する良さももちろんあるのは理解しているつもりだが、小規模校の良さ、そこでなければできない教育を大切にしてほしい。「地域で子どもを育てる」→生まれ育って生活している場に小学校なくして、この言葉は成就しないと思うのである。（４０代）

■海部小学校区／５０代以上（６件）

●子どもの人数が少なくなって、いろんな活動が難しかったりと大変だと思いますが、少ない人数だからこそ充実した学校になればと思います。（５０代）

●地元出身の先生が少なすぎる気がします。地域独自の特性があるので、もう少し増やしては。（６０代）

●私はこれからは個の時代と考えます。集団が日本の特徴でありましたが、今の時代国際化が進み、様々な国の人と交流することが活発になり、その時代に対処できるのは集団の一員では不足。自分というものを持つ個人の確立、それが求められていると考えます。教育の現場においてもぜひ個人の考え方、想像力、創造力などを育てることを重視していただきたいです。また、地域の過疎化は大きな課題となっています。幼いころから子どもたちに地域の素晴らしさを伝えることが必要と思います。地域の人からどうような生活をしているのか大人との交流を通して、仕事、技術、文化の継承ができる社会を作っていくことが、将来子どもたちが自分の生まれた町で生活していきたいと思えるようになるのではないでしょうか。ぜひご検討いただきたいです。（６０代）

●奥浦に小学校があり、元気な姿を見、あいさつできることは大人にとって幸せなことではあるが、もう何年も前から少人数での仲良しクラブ状態では、学校とは言えず、ある程度の人数で学校という社会、気の合う相手がいたり趣味を同じくする人、嫌な人や苦手な人、競争する相手、学業、スポーツなど多様な人の中でこそと思います。大人のエゴで（父兄や先生）今のまま続けることは、子どもの為にならない、おかしいと思います。（７０代以上）

●以前、心理学者ダニエル・ゴールマンの著書「EQ、こころの知能指数」を読んだことがある。IQ（知能指数）や偏差値の高さによって幸せな人生を送れるとはかぎらない。大切なのはEQ！自分の本当の気持ちを認識し、激情をコントロールし失敗してもあきらめず他人の気持ちを思いやる・・・等々の能力だとある。又、人間が社会で活躍し幸せに生きていくうえでIQが役立つ場面はたかだか２割、あとはEQで決まる。EQはふつうの子どもは思春期の終わりごろまでに学習するのが理想であり、大人になって修正するのには何倍もの苦労が必要になるそうだ。わが町海陽町には海、山、川、等自然に恵まれ昔から農林水産業を基盤とした一次産業が盛んである。都会と違って経済力には劣るがEQを育てていく体験学習の題材は無限にある。地域との繋がりを持った教員を育成し、体験的な学習方法を開発し地方から中央へ発信して行けたらと思う。（７０代以上）

●小さい頃から視野を広げる為にも、多人数の中で切磋琢磨して成長してもらいたいと思います。（７０代以上）

■宍喰小学校区／４０代以下（２９件）

●小・中学校は地区ごとでいいと思う。遠くから通うことになったら大変である。（２０代）

●子どもたちの人数が減っている中で、再編や統合はやむを得ないことかもしれないが、子どもたちの通学方法や通学時間、安全の確保など十分に思慮してほしいと思う。また、保護者の方の負担面なども同様に考えてほしいと思う。よろしくお願い致します。（２０代）

●学校への通学方法を完備しないと、登校時間と保護者の仕事を考えたときに必ずどちらかに無理がでます。現実的に再編・統合は無理だと思う。（３０代）

●複式学級がどのようにするのか、全く想像がつかない。飛び級ではないんですよね？１学年８人以上いればよいと思う。私の小学生時代は35人×5クラスだった。だが、小学生時代からテレビでやっていた人数の少ない学校にあこがれがあった。夫は地元の人で、友達がみんな幼なじみみたいでよいなと思う。財政面では大変だと思いますが、学級人数が少ないことは魅力的なことだと思います。（３０代）

●通学がどうしても宍喰方面の方が海南へとなる可能性が高いので親の負担にならないように、安全面に配慮した移動手段は必須。また、中学校からでも良いような気もしますが、小学校からにするのであれば、宍喰小学校の先生方や校風も、大事にして頂いて、なるべく子どもの精神的な負担となることのないように「明るく楽しく」なるような環境づくりはお願いしたいです。また、統合しないとしても、他学年との交流をもっと密に増えるような仕組みがほしいです。宜しくお願いします。※その他、夏季限定の１～２ヵ月など一定期間、トライアルで統合授業をするなども良いなと思います。（３０代）

●夏休みや冬休み等、長期の休みの際、学童が宍喰にもあるといいのになと思います。下の子たちを保育所に送ったり、自分も仕事に行かねばならず、その中で海部や海南まで送っていくのはとても無理があります。ぜひ宍喰にも学童を作っていただきたいと思います。よろしくお願い致します。（３０代）

●避難場所となるよう津波が来ない所に学校を作るべき（３０代）

●スポーツをすることを考えると再編・統合は良いと思いますが、少人数だからこその良さはあると思います。家族のような深い関係性はすばらしいと思います。（３０代）

●統合・再編。そのせまい考えをすてた各学校がどうすれば若者が地域に住み、そして子どもと暮らしてもらう、そのためにはどうすればよいのかを考えるべき。人口の増減を傍観するだけ。そして子どもたちが減少したから統合…あまりに無力で悲惨すぎる。地元への愛情、地元への思い、全て子どもたちから薄まっていくいっぽうだ。学校それぞれが魅力ある学校、校風、子の親

世代の若者が、この学校ならうちの子を入れたい！そう思ってもらえるよう学校関係者は尽力するべきた。（３０代）

●日本の学校教育では、大人や教師が知らぬ間に子どもたちの自主性、主体性を押さえつけるような教育だと言われています。大人の「こうでなければならない」という概念を良かれと思って教えていますが、気づかぬ内に「他と同じでなければならない」や「先生に怒られることはしてはいけない」が植え付けられ、本来の子どもたちの自由な考えを潰してしまっていると言われています。子どもをしかる大半は大人にとって大変だったり、都合が悪いからであればそれを子どもに押し付けるのは教育とはまた別のものだとも言われます。日本では学校で”こうでなければならない”という義務ばかりを教え、諸外国では人権の一つである”自由”を徹底的に教えてくれるものです。自由に物事を考え、行動できる権利を日本の教育に教えてくれない（極端に少ない）とも海外からは言われるほど。それゆえ過去に類を見ないほどの不登校者や若い世代の自殺者が増えているのが現状です。これは”他と同じでなくてはならない”を何十年も教え続けた日本教育の代償です。地方の、ましてや日本の宝である子どもたちを守れる町であって欲しいと願います。多くの有名大学教授なども声を上げています。そうした映画なども多く公開されています。１つ例に上げるなら『夢みる小学校』を検索して予告編だけでもご覧になってください。統合して１つは今まで通りの学校、もう１つはこうした学校として選べる町になっても、全国から多くの親たちが興味を示してくれるのではないかと思っています。よろしくお願い致します。（３０代）

●小学校は、子どもの学習や安全、通学の方法などを考えると、個人に対応しやすい現在の地域ごとの分校スタイルで成長を見守れる方が良いと思う。中学校は、部活動や高校や進路の面において、統合し大人数での学習に対応できる事が望ましいと思う。色々なタイプの友人と交流し刺激を受ける事は、子どもの将来を考えさせる手伝いになると思うので。（４０代）

●クラス替えがあるくらいになれば、良いとは思いますが、交通手段が大変になるので、穴喰は小中が一緒になれば良いなと思います。ただ、防災公園が近くにできるので、その所に学校が移ればいいなと思っています。（４０代）

●町としての考え方もあると思いますが、今のような少人数で全員の事がよく分かる規模が気に入っていますので、できるだけ今のままがいいと思っています。（４０代）

●異年齢でも顔と名前が分かり、みんなが仲の良い今の状態が好きです。個人的には統合を希望していません。（４０代）

●自分の住んでいる地域（宍喰）への再編・統合であれば・・・と考えると良い面もあるかもしれませんが、小学校の子どもがスクールバスに乗って海南地域まで通わなければなるのかと考えると登下校の時間や生活習慣まで変化が出てくるのではないかと心配になります。少人数になってもできるだけ自分の住んでいる地域で学び地域のことを知っていってほしいと願っています。また、少人数だからこそそれぞれの子が、様々な（個々に対応した）支援をうけることができるような学校になってほしいです。（４０代）

●海南地区と宍喰地区は、地理的・文化的に統合するのは難しいと思う。地域のこれからを考えるときに、子どもには、居住区で学び、そこの人々と交流を深めることが大切だと思う。１学年２学級を確保する人数も今後難しいと思うので、１学級でも、柔軟に授業形態を変えられるよう、教職員数を増やす方が指導体制が充実すると思う。例えば、習熟度別や少人数・個別授業など。集団による教育の充実を図るなら、各校で定期的に合同授業などを行って、そのときだけ２学級でやったり、グループで活動したり工夫すればいいと思う。集団の母数を増やすことよりも１人ひとりの居場所や活躍できる場をつくることの方が大切だと思う。（４０代）

●統合は絶対さけるべき！町の活気がなくなってしまう。学校が町から消える事によって、人口減少にも大きくつながっていくと思う。町から学校をなくす事は断固反対！！良い見本が宍喰商業高校と思う。高校がなくなったせいで店じまい、人口減少、活気が全くなくなった。近くに学校があれば、移住者も、来やすくなると考えます。基本、子ども中心の考えの町づくりを切に願います！！！（４０代）

●人数は少ないですが、どの子も学習に前向きに一生懸命取り組んでいます。大変なこともありますが、少人数であるが故に多くの経験（体験活動）ができたり、きめ細やかな対応するということが可能になります。これからの子どもたちは、以前の児童像は異なってきていて、支援の仕方もとても多様化しているので、人数が多くなると収拾がつかなくなるかも･･･と感じています。これからも地域の子どもたちが健やかに幸せな人生が送れるよう教育行政にはお力添えをして頂きたいなと思います。（４０代）

●毎年子どもが少ないのは事実。統合はせざるを得ないといずれは思います。近年災害、地球環境の変化も視野に入れないといけないと日頃思っています。学校、家以外の場所で（外出先）地震があったらどこへ逃げる？のは、子どものほうが詳しいと思います。避難所は階段が多くお年寄りには逃げるのはむつかしいけれども、子どもたちに色んな場所に避難所があることを家庭からも学校からも学んでいけたらと思います。防災公園の着工が早く終われたら少しは安心はすると思います。保･小･中･宍喰診療所が防災公園の様に上に建ててもらったらありがたいです。通学は、大人は車を運転する人が多いと思うので（最悪）バスがなくとも送迎はできると思います。行きより帰りの心配の方が強いです。自分の地区は女の子が多いので、冬は特に夜道が不安なのでバスかスクールバスが（帰りのみ）使用出来たらありがたいです。話がズレてる部分もありすみません。（４０代）

●再編、統合した場合、保護者が送迎せずに済む方法を考えて欲しい。特に長期休暇の部活動が子どもだけで登下校できる方法を考えてほしい。（４０代）

●子どもの数が減っているので統合などはやむを得ないとも思いますが、どのようになっても子どもの安全を一番に考えていただきたいと思います。南海地震が発生した場合、宍喰以外の小学校中学校では、どこへ避難しているのか・・・など不安はいろいろとあります。また通学距離が長くなる場合は、バス通学になると思いますが、町内の隅々まで来てもらえなければ別な方法を考えなければいけなくなります。少人数で保育所からずっと過ごしてきていますので、いきなり大人数になると子どもに大きなストレスになるとも思いますし、中学校から・・・などキリの良い時期であれば良いなあと思います。（４０代）

●このあたりの出身ではなく、全く土地勘がないですが、子どもが宍喰小学校に入学し、学んできたことを話してくれたり、地域との交流行事が多くて、とても楽しく、暮らしております。特に授業参観での避難訓練はとてもありがたく、毎年参加し勉強になっています。子どもの数が少ないので、部活動が成立しない、クラス替えがないなどデメリットもありますが、少ないからこそ、横だけでなく縦のつながりも多く、地域住民の方たちからもあたたかく見守られ、心豊かに育っているなと、日々感じております。人口が減っているので仕方のないこととは思いますが合併することで物理的な距離だけでなく、心理的なつながりも離れてしまわないかと思うと少し心配なところはあります。（４０代）

●特になし。仕方のない事は仕方のない事なので皆様の意見を尊重したいと思います。一番は子どもたちの為に！（４０代）

●生徒数が少ない事の長所と短所があると思います。通学手段さえ整えば統合するのもしかたがない様に思います。（４０代）

●中学校が２つの場合、部活動等が両校にまたがって参加できるのか、やはりそれは難しいのか気になります。例えば野球は両校に部があり、合同チームができていると聞きましたが、一方しかない部活動は他校の生徒が参加することはできないのでしょうか。（４０代）

●海、山、川と自然あふれる海陽町で親切であたたかい先生方と共に子どもたちが学べることがとても嬉しく思っています。今回のアンケートは子どもが減少し少子化を前提としていますが学校、町が協力し「魅力ある海陽町」となれば移住者が増え、もともといる家族も子育てしやすい、安心して出産できる、子どもが元気に笑顔あふれる町になるのではないでしょうか。例えば、小さな町だからこそできる完全地産地消の給食、オーガニックな給食、安全安心な食を提供できる給食が食べられる学校というだけでかなりの話題になります。実際、食べたものでカラダは作られるわけですから、食をしっかり考えれば自ずと生活、学力へも良い方向へ作用します。全国でも給食を大切にしている自治体はあります。子どもたちの未来のためにもオーガニックが当たり前な海陽町になってほしいです。それは町のためでもあるからです。山、川、海と自然を大切にする気持ちにも繋がります。食以外でも合成洗剤を使うことで海への影響、柔軟剤や芳香剤からの香害についての公害、自然を守るため、自分たちだけでなく次の世代へのことも考えてオーガニックな町づくり学校づくりへ希望します。（４０代）

●クラスや学校の子どもの人数が少ないと、集団での活動が制限される（学習スポーツや人間関係交流など）ことが気になる。（４０代）

●子どもの数が減ったので、再編、統合を考えるというのはどうなのかな？と思います。少人数だからこそできる活動や教育もあるのではないでしょうか。（４０代）

●可能であれば、再編統合に関する会議はひらかれたものとして、HP に議事録を上げるなど、広く知らせていただきたいです。トップダウンに終わらない話し合いがおこなわれますようご尽力ください。アンケートの内容から統合ありきのようですが、一度フラットな状態に戻って少人数制の長所も含めて考えていただければと思います。（４０代）

■宍喰小学校区／５０代以上（１０件）

●日本中で少子化の波が来ており特に地方においてはその影響が大きく海陽町においても児童数の減少に歯止めがきかないのはよく理解できます。現状とその先を見越して対策を検討する一方で、子どもを増やすための施策も必要であると思います。どの親も子どもには健康で元気に育ってほしいと思います。例えば、子どもを自然豊かな場所でのびのびと元気に子育てしたいと思う親にとって学校給食の地産地消、オーガニック化は魅力の１つになると思います。全国に先掛けて実施しているところもあるので、次の世代につなげるという意味でも有意義であると思います。美しい自然が残る海陽町だからこそ自然を大切にし次の世代につないでいく子をどんどん育てていけたら素晴らしいと思います。学校給食時に今回のお米は〇〇さん、人参は〇〇さん…と子どもたちと作ってくれた人がつながっていったらその子どもたちが大人になったとき、この町を次の世代につないでくれると思います。（５０代）

●小学校の統合には反対、中学校は積極的にすべきだと考えております。地元の小学校が廃校になってしまうのはさびしいですし、核家族やひとり親家庭、共働きの家庭の増加といった現状をふまえて児童の通学による安全面、放課後の児童の過ごし方を考えると賛成はできない。その点、中学生にとっては少人数で学習や部活動をするよりも、切磋琢磨し、人間的な成長も望めるのではないかと思います。またクラス編成もできるようになり、新たな人間関係の構築ができます。（５０代）

●「学校側の情報共有意識の低さ」「加配が必要と思われる子どもへの対応不足」「教師の業務量」「保護者から学校への要求のエスカレート…等」問題は多いと思いますが、保護者も、学校側も

「優先すべきは子どもたち」という意識が低いのでは、と感じています。教育委員会と学校の連携も疑問を持つことが少なくありません。私は、たとえ子どもが少なくとも、学校関連の予算を削る事は改悪と考えています。とはいえ予算には限りがあるのも事実であれば、では「どのように変えていくのが子どもたちのためによいか」「そのために何ができるか、するか」は、俯瞰的視線が必要であり、そのためには、まず現場の教師の意見に耳を傾ける必要があるのではないでしょうか。「公立」の意味を、町長、教育長は理解して頂きたい。あの町で子育てをしたい、と思われる学校になる事を願っています。（５０代）

●なるべく宍喰保育所、小学校、中学校を存続させてほしいと思います。必要な時にいっしょに学習する形態がいいのではないでしょうか。由岐小・中も生徒数は少ないですが存在しています。統合が手段とは限らないと思います。（５０代）

●現在の子どもたちは我々の子ども時代とは違い、歩くことが少なくなっていると思います。一家に２台の車が当たり前の現代、子どもたちは親に車で送り迎えをしてもらうのが通常のようです。今、小学生は徒歩での集団登校をしておりますが、これが学校が遠くなりスクールバスでの通学になってしまうのは残念です。歩くことは発育盛りの子どもたちにとってとてもプラスになると考えるからです。（６０代）

●再編・統合において将来生徒たちが得るものを多々身に付け体験できる環境を。（７０代以上）

●子どもたちも少なくなって再編・統合も仕方ないと思うが、出来るだけ、子どもの立場になって考えていってほしいと思います。（７０代以上）

●人口減少の流れの中では学校もその波を避けることは難しいと思います。ただ最初に再編・統合ありきではなく、どうすれば維持できるかの知恵を絞りだし議論を尽くすことをお願いします。辺地であっても自然が豊かな当地でなら特色ある学校づくりができそうな気がします。例えば山村留学制度の充実やグローバル活動事業を拡大して文化、芸術、スポーツなどを取り入れたメニューの作成などなどです。いちばんは当事者の子どもたちが夢や希望を育み、その実現に向かう環境づくりをお願いいたします。いつの時代でも人が大切にされ人が主役の社会が大事です。この地から次代を切り拓く人づくりを進めていただきたい。（７０代以上）

●各校１校にするのは、性急かもしれませんが、少人数での教育より大人数での方が将来子どもたちの人生にプラスになると思われます。私も奥の地域から町に出て来ましたが、結果的には良かったと思っています。一番良かったのは友達がふえた事などです。ただ、距離的に困る家庭が出る可能性があるので交通面で一考する必要があると思われます。熟慮されたし！（７０代以上）

●再編・統合に関しては本当にむずかしい問題だと思います。高齢の１町民としてはこれといった意見も答えられません。６月 29 日の徳島新聞の鳴潮に考えさせられる文がのっていましたネ。なるほど…。そのとおりかもと考えさせられました。（７０代以上）

■地区無回答／４０代以下（１件）

●学校が無くなると地域がさびれる等、大人目線の意見を聞いたことがありますが、大事なことは当事者である子どもたちであり、子どもたちの成長に何が良いのかを考えサポートするのが大人の役割だと思います。（４０代）

■地区無回答／年齢無回答（１件）

●人口減少が予測される中、子どもたちは「人財」である。その基本となる「教育」は正しく行われるべきであり、子どもたちの「権利」である。教育格差が叫ばれる中、海陽町の子どもたちへどのような支援をするか、町全体で考えなければならない。再編・統合には「反対ではない」が

再編した場合、町内で格差が生まれない仕組みを大人が考え、実行しなければならない。その為に路線バスと統合しても良いが、安全面をどうするか、待ち時間を有効に使えるか、その仕組みは持続可能か※ボランティアや親族の負担は最小限か等様々な項目を検討し、実行し、改良し続けなければならない。海陽町を魅力的な「まち」にするためには「子どもたちの教育」は重要であり、即効性がなくとも継続して投資を行わなければならない。子どもたちの未来が明るくなる施策を期待している。頑張ってください。（無回答）